

向野A遺跡第7～10次発掘調査報告書

2023

ひ　　た　　ち　　な　　か　　市
公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

向野A遺跡第7～10次発掘調査報告書

2023

ひ　　た　　ち　　な　　か　　市
公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社



向野 A 遺跡第 9 次第 1 号溝跡遠景（東から）



向野 A 遺跡第 9 次第 2・3・4 号溝跡遠景（東から、写真左上が馬渡埴輪製作遺跡）

序 文

ひたちなか市は、関東地方の北東部、那珂川の河口の左岸に位置しております。関東平野の北端にほど近く、阿武隈山系へとつながる那珂台地が市域の大半を占めておりますが、那珂川沿いは水田の広がる沖積低地であり、東側は太平洋に面し、その海岸には砂丘や磯が広がるなど、大変バラエティに富んだ景観を呈しています。

このように海・山・川がバランスよくそろった多様な自然環境に恵まれたひたちなか市域は、原始・古代から人々の生活の地として栄えており、面積 100.23K m²の市域には合計約 300 箇所以上にのぼる埋蔵文化財包蔵地が確認されております。

向野地区には約 10 箇所の遺跡が確認されており、その中には、1969 年に国の史跡に指定された古墳時代の埴輪作りの村である『馬渡埴輪製作遺跡』が含まれています。『馬渡埴輪製作遺跡』は、「はにわ公園」として整備が進められ、現在は古代の人々の暮らしに思いをはせる憩いの場となっております。

当公社では、向野地区の区画整理事業に伴う事前調査を受託し、1988 年度から 2004 年度までに向野地区に所在する遺跡の発掘調査を実施し、旧石器時代の文化層、縄文時代の最古の陥穴、弥生時代の粘土採掘坑、古墳時代の住居跡、近世に掘られた溝跡などを検出し、2007 年に報告書を刊行しております。

本書は、上記の区画整理事業に伴う事前調査の継続事業として、向野遺跡群中の向野 A 遺跡について発掘調査を実施した成果を公表するものです。本書が、向野地区の歴史を知るための基礎資料として広く活用していただけますことを祈念いたしております。

最後になりますが、調査活動に多大なご指導・ご協力を賜りました関係諸機関、向野地区の関係者各位に厚くお礼申し上げます。

令和 5 年 3 月

公益財団法人 ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社
理事長 渡邊 政美

例 言

- 1 本書は、ひたちなか市の委託を受けて、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社が実施した向野A遺跡発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査は、ひたちなか市東部第2土地区画整理事業地内に存在する埋蔵文化財の事前調査を目的とする。
- 3 発掘調査および整理報告は、ひたちなか市教育委員会文化財室の指導のもとに、公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社の文化課文化財調査事務所が実施したものであり、組織は次のとおりである。

理 事 長	渡邊 政美	
副 理 事 長	須藤 雅由	
常 務 理 事	高田 晃一	
理 事	雨澤 正 櫛田 眞 網川 正 大和田 健 米川 央洋 湯浅 博人 白土 光伸	
監 事	北原 祐二 安 智範	
文 化 課 文化財調査 事務所	課 長	大川 英樹
	所 長	佐々木 義則
	課 長 補 佐	稲田 健一
	主 事	田中 美零
	嘱 託	齋藤和佳子 西野 陽子

- 4 発掘調査の従事者は次の通りである。
調査員：稲田健一・田中美零
調査補助員：青木千歌子，石川祥二，海老原四郎，荻 優樹，小貫栄子，海後晴美，北原明子，杉山 博，鈴木 篤，中嶋順子，根本 徹，高野真紀，廣水一真，堀口智恵美，前島陽一，矢野徳也，山田梨央，米川 武，吉岡 宏，綿引信夫，渡辺恵子
- 5 地形測量および遺構の測量，遺物の出土状況は，有限会社 三井考測に委託した。
- 6 整理作業及び本書の作成に従事したものは，次の通りである。
青木千歌子，稲田健一，小貫栄子，菊池順子（故人），桐嶋美子，後藤みち子，齋藤和佳子，佐々木義則，佐藤富美江，鈴鹿八重子，田中美零，西野陽子，橋本勝雄，矢野徳也
- 7 旧石器時代の遺物については，橋本勝雄氏に実測図の作成とご指導をいただいた。
- 8 本書は，稲田健一が編集した。
- 9 本書の執筆と分担は以下のとおりである。
橋本勝雄（旧石器時代の遺物） 田中美零（縄文時代の遺物） 矢野徳也（岩石同定） 稲田健一（左記以外）
- 10 発掘調査の出土資料は，ひたちなか市埋蔵文化財調査センターで一括保管している。
- 11 本書の作成にあたっては，次の方々に御協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（50音順・敬称略）
川崎純徳，齊藤 新，鈴木素行，田中 裕，千葉美恵子，照沼沙保里，飛田英世，橋本勝雄，宮下直大，森田 徹，矢野広子
市区画整理事業所区画整理二課，市広報広聴課，打越建設有限会社

目 次

I 遺跡の概要	1
1 地理的環境	1
2 向野A遺跡における調査の歩み	1
3 調査の経緯	2
II 検出した遺構と遺物	3
1 調査の経過	3
2 遺構と遺物	3
(1) 第1号溝跡	3
(2) 第2号溝跡	8
(3) 第3号溝跡	10
(4) 第4号溝跡	12
(5) 溝跡について	15
(6) 鎌倉街道について	16
(7) 性格不明遺構	16
III 旧石器・縄文時代の遺物	17
1 旧石器時代の遺物	17
2 縄文時代の土器	18
3 縄文・弥生時代の石器	27

写真図版

I 遺跡の概要

1 地理的環境

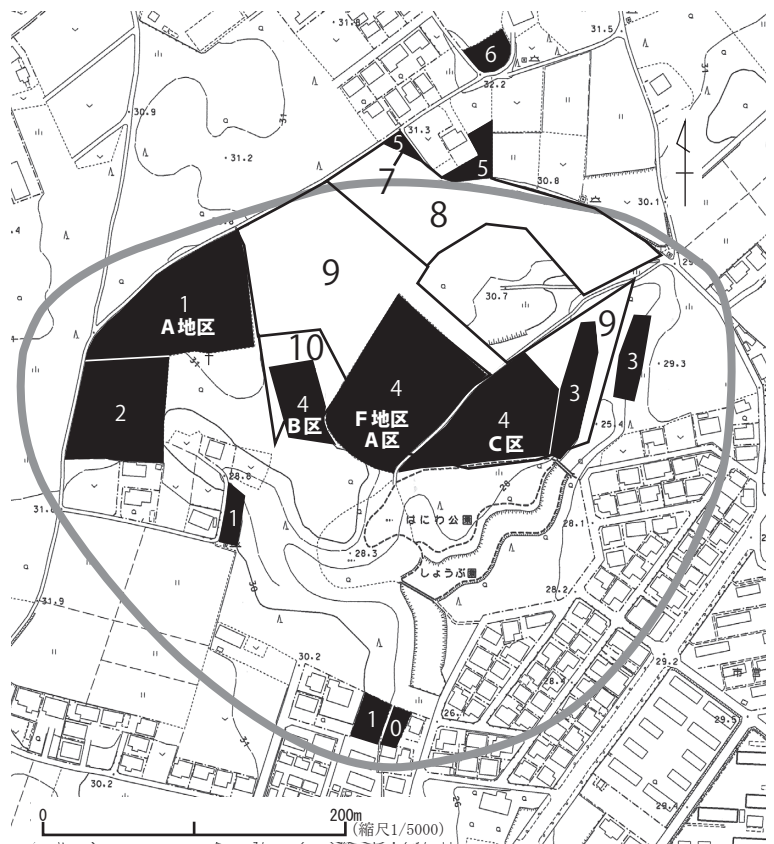
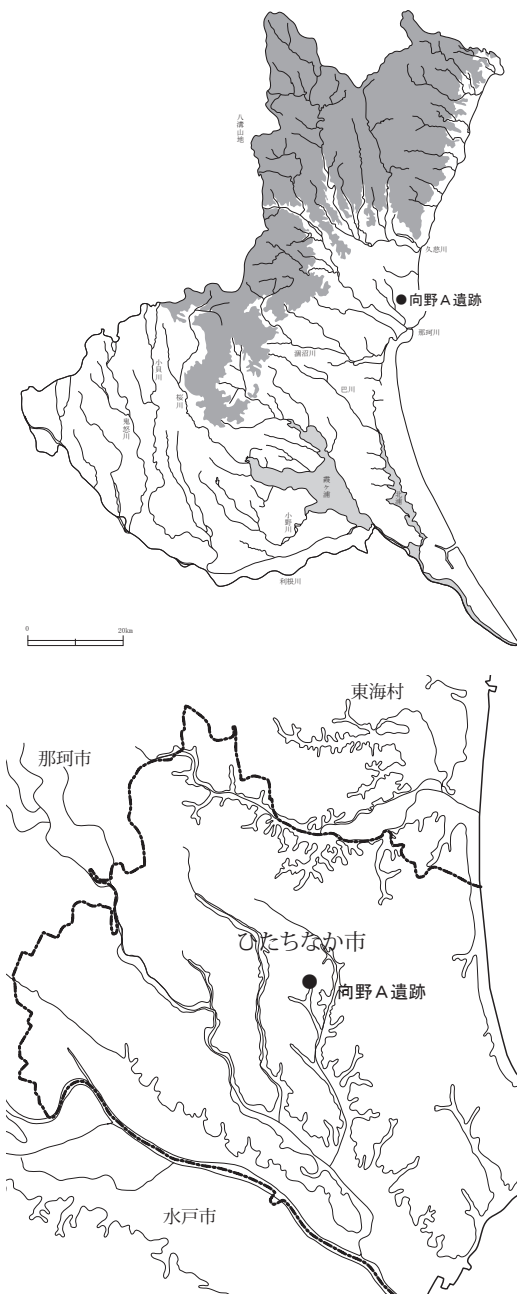
向野A遺跡が属する向野遺跡群は、ひたちなか市馬渡字向野を中心とする、向野地区に所在する遺跡群である。

向野遺跡群は、JR勝田駅から3.5km東に位置する。本郷川右岸の北西側に分岐した支谷に周辺、南北1.6km、東西1.5kmの範囲に広がっている。大正時代の地図からは、この周辺にはかなりの起伏が存在していたことを知ることができる。しかし、現在は開発や区画整理事業などによって、支谷の一部が埋め立てられ、起伏なども平坦になっている所が多い。

2 向野A遺跡における調査の歩み

向野A遺跡としている範囲の中には、国指定史跡の馬渡埴輪製作遺跡が含まれている。よって、向野A遺跡の調査歴は第1表のとおりだが、この他に馬渡埴輪製作遺跡の調査として1965年から1968年の7次の調査と、馬渡埴輪製作遺跡史跡範囲外調査として1981年から1989年の10次の調査がある。

今回の調査区では、第9次調査区の南東区は第3次調査区の一部と第4次調査のF地区C区を含み、第10次調査区はF地区B区を含み、馬渡埴輪製作遺跡史跡範囲外調査H区とした溝跡(第4図)が第8次・9次・10次調



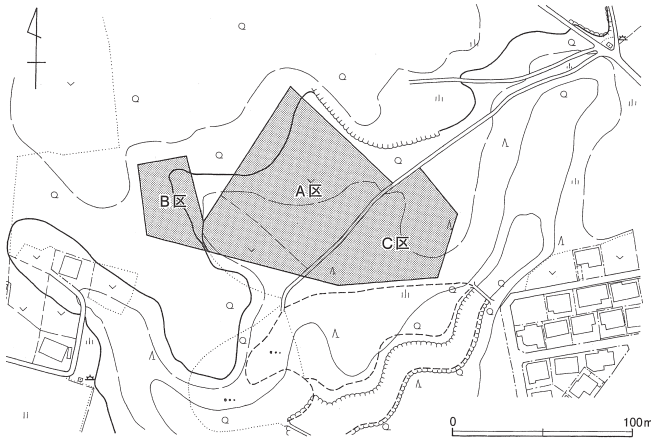
第1表 向野A遺跡調査一覧

次	調査年度	調査主体	調査種別	遺構	文献
0	1983	勝田市教委	本調査	なし	1
1	1990	公社	本調査	包含層(縄文), 粘土探掘坑2(弥生), 溝1	2・6
2	2002	公社	本調査	なし	3・6
3	2003	公社	本調査	陥穴1(縄文), 溝2	4・6
4	2004	公社	本調査	陥穴1(縄文), 住居跡1(古墳), 溝2(中・近世)	5・6
5	2018	公社	試掘	溝1	7
6	2019	公社	試掘	なし	8

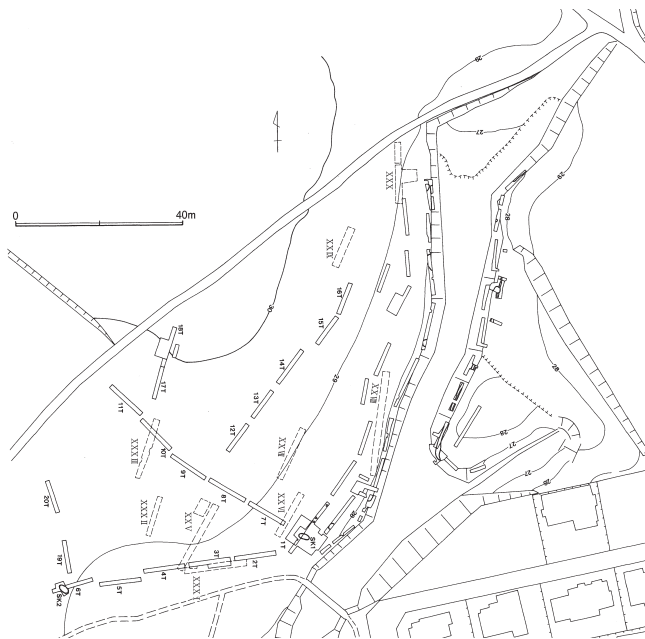
文献

- 1 昭和58年度市内遺跡発掘調査報告書 2 向野I 3 向野V 4 向野VI
 5 向野VII 6 向野遺跡群 7 平成30年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書
 8 令和元年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書

第1図 向野A遺跡の位置



第2図 第4次F地区の調査区位置図



第3図 第4次F地区C区全体図



第4図 馬渡埴輪製作遺跡関連調査区全体図

査区で第3・4号溝跡として確認している。また、第9次調査区北西区の西側には、第1次調査のA地区があり、結果として既存の調査区の北東側地域を追加調査するような状況になっている。

これらの既存の調査の成果からは、遺構としては溝跡と陥穴状遺構を検出しているが、調査対象面積に占める遺構の割合は非常に少なく、今回の調査でも遺構の検出は少ないものと予想した。

3 調査の経緯

向野遺跡群においては、区画整理事業に伴う事前調査として、当時東部第2土地区画整理事務所と市教育委員会・当公社で協議が行われ、当公社が調査の委託を受け、1989年度から1991年度と2002年度から2004年度に調査を実施してきた。

今回、区画整理事業に伴う事前調査が再開となり、2019年度は2018年度の道路建設予定地の試掘調査で確認した溝跡の調査(第7次:50㎡)から開始し、2020年度から2022年度の3年間は、過去の調査において森林のため十分な調査ができなかった地区の追加調査を含める形で、トレンチによる遺構確認を行い、確認した遺構の発掘調査を実施することとなった。2020年度から2022年度の調査対象面積は、2020年度(第8次)が9,595㎡、2021年度(第9次)が17,165㎡、2022年度(第10次)が2,744㎡で、総面積は29,504㎡である。

調査にあたって、事業主であるひたちなか市と発掘調査を行う公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社との二者、調査の実施方法等について前述の二者にひたちなか市教育委員会を加えた三者で発掘調査業務の契約が交わされた。

参考文献

- 白石真理ほか 2007 『向野遺跡群』財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社
- 勝田市教育委員会 1989 『昭和63年度 馬渡埴輪製作遺跡発掘調査報告書』

II 検出した遺構と遺物

1 調査の経過

第7次

所在地 / ひたちなか市馬渡字向野 2884 番 2 外

期間 / 2019 年 10 月 9 日～10 月 31 日

面積 / 50 m² 時代 / 縄文・中世

遺構 / 溝跡 1 条 (中世)

調査経過 / 10 月 9 日: 重機による表土除去 10 月 16 日: 遺構掘り込み開始 10 月 23 日: 第 1 号溝跡全体写真撮影, 機材撤収 10 月 31 日: 重機による埋め戻し

第8次

所在地 / ひたちなか市馬渡字向野 2883 番 1 外

期間 / 2020 年 10 月 1 日～12 月 4 日

面積 / 1,100 m² 時代 / 旧石器・縄文・奈良平安・中世

遺構 / 溝跡 1 条 (中世)・溝跡 2 条 (時期不明)

調査経過 / 10 月 1 日: 現地確認 10 月 6 日: 重機による表土除去開始 10 月 9 日: 遺構確認開始 10 月 13 日: トレンチの図面・写真による記録作業開始 10 月 21 日: 第 1 号溝跡掘り込み開始 10 月 29 日: 第 2・3 号溝跡掘り込み開始 11 月 27 日: 第 1～3 号溝跡全体写真撮影 12 月 1～4 日: 機材撤収

第9次

所在地 / ひたちなか市馬渡字向野 2869 番外

期間 / 2021 年 10 月 1 日～12 月 10 日

面積 / 1,450 m² 時代 / 縄文・奈良平安・中世

遺構 / 溝跡 1 条 (中世)・溝跡 3 条 (時期不明)・性格不明遺構 2 基

調査経過 / 10 月 1 日: 現地確認 10 月 4 日: 重機による表土除去開始 10 月 5 日: 遺構確認開始 10 月 12 日: トレンチの図面・写真による記録作業開始 10 月 15 日: 第 1～3 号溝跡掘り込み開始 10 月 21 日: 第 4 号溝跡掘り込み開始 10 月 29 日: 第 1・2 号性格不明遺構掘り込み開始 11 月 10 日: 第 1 号溝跡全体写真撮影 11 月 24 日: 第 3 号溝跡全体写真撮影 12 月 3 日: 第 2・4 号溝跡全体写真撮影 12 月 10 日: 機材撤収

第10次

所在地 / ひたちなか市馬渡字向野 2885 番 1 外

期間 / 2022 年 5 月 20 日～6 月 14 日

面積 / 275 m² 時代 / 旧石器・縄文・奈良平安

遺構 / 溝跡 5 条 (時期不明)

調査経過 / 5 月 20 日: 重機による表土除去開始 5 月 24 日: 第 2・4 号溝跡掘り込み開始 6 月 1 日: 第 2・4 号溝跡全体写真撮影, 第 3 号溝跡掘り込み開始 6 月 3 日: 第 3 号溝跡全体写真撮影 6 月 14 日: 機材撤収

2 遺構と遺物

今回の調査で検出した遺構は、溝跡 4 条 (SD 1～4) と性格不明遺構 2 基 (SX 1・2) である。

(1) 第 1 号溝跡 (SD 1)

遺構 第 1 号溝跡は調査区の北端に位置しており、N -120° - W の方向に延びている。一部切り株の部分は調査できなかった。確認面での幅約 2.2-2.8m で、確認面からの深さ約 0.5-0.7 m、調査区内で検出された長さは約 123m を測る。東端と西端の底面での標高差は、西端が約 0.5 m 低い。その断面形をみると、南側は急斜面で北側は緩斜面になっており、西側部分の南側斜面は急斜面から底面付近で垂直に落ちている。

第 1 号溝跡は、そのすぐ北側に農道が併行しており、この道が中世の「鎌倉街道」と推測されていること [飛田 2018] や断面形状から、道路状遺構の側溝と考えられる。反対側の側溝の有無を確認するため、第 12 号トレンチを設定したが、確認出来ないため、農道下もしくは農道の北側にあるものと推測する。

土層は黒褐色土が主体で、下層はそれにややロームブロックを含む土層が堆積している。

遺物 第 7 次調査時に銅銭 1 点が出土した。出土した位置は、底面から約 0.4 m 上で、第 1 層中となる。

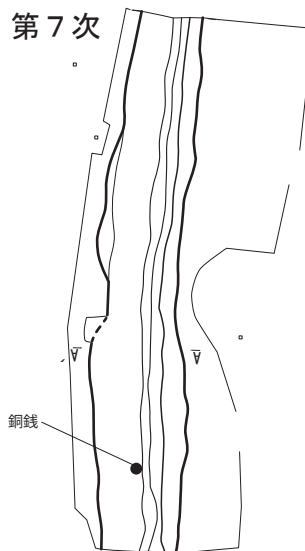
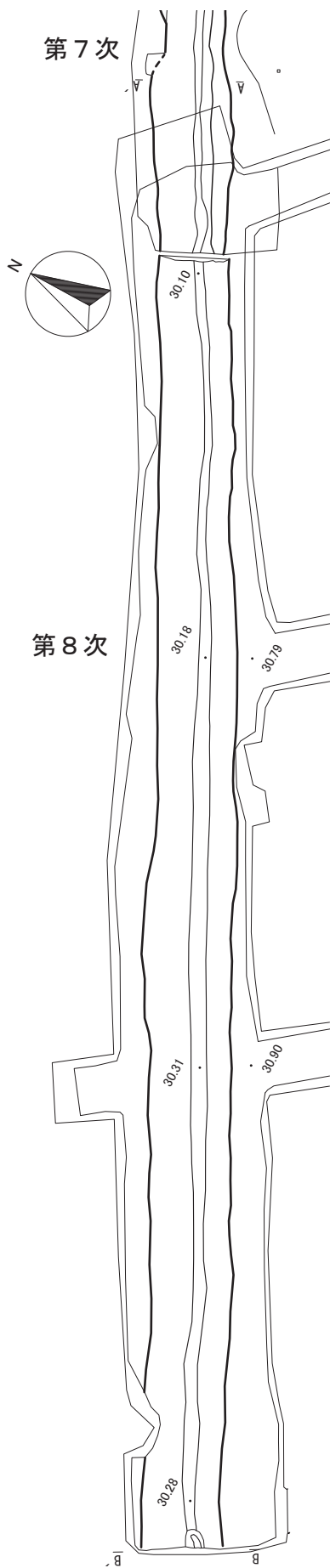
銅銭は、「元祐通宝」である (第 5 図)。直径 2.4 cm、穴 0.6 cm、重量 1.72 g を測る。



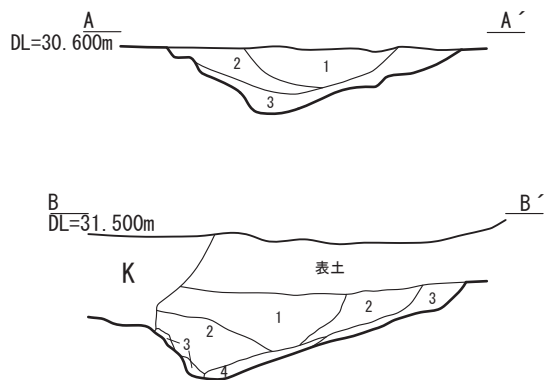
第 5 図 第 1 号溝跡出土銅銭



第6図 第7～10次調査区

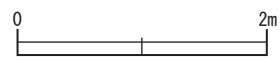


第8次調査区第1号溝跡 (西から)

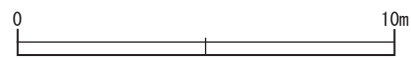


土層説明

- 1 暗褐色 (ローム粒少量含む 締まりやや有り)
- 2 黒褐色 (ローム粒やや多量含む 締まりやや有り)
- 3 黒褐色 (ロームブロックとローム粒多量含む 締まりやや有り)
- 4 暗褐色 (ローム粒多量含む 締まり強く有り)

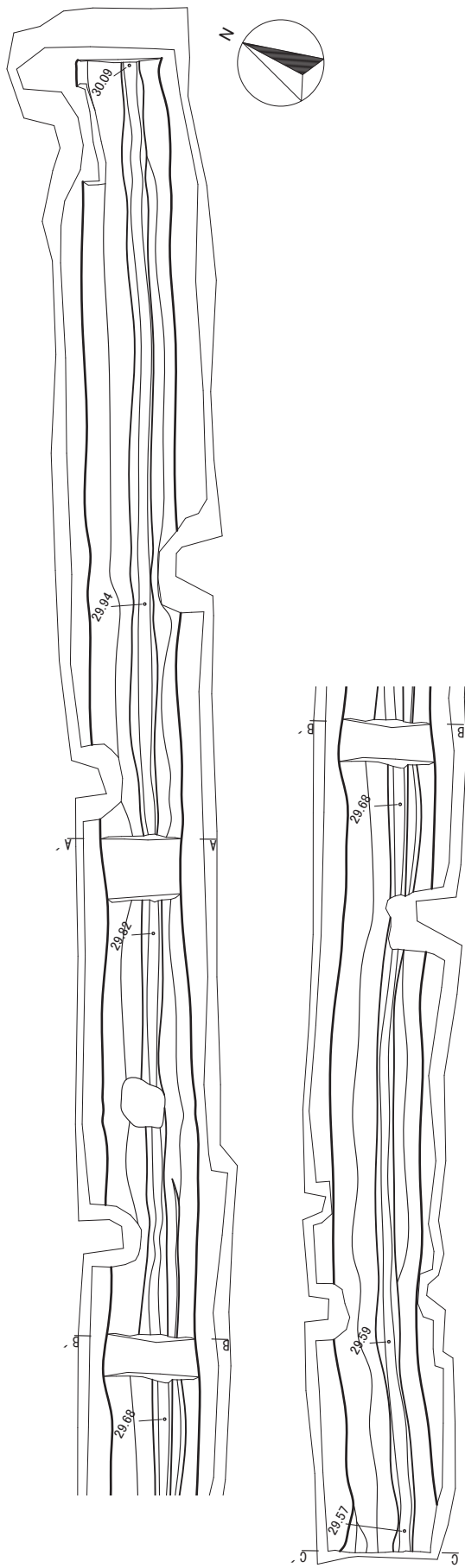


セクション図：縮尺1/60

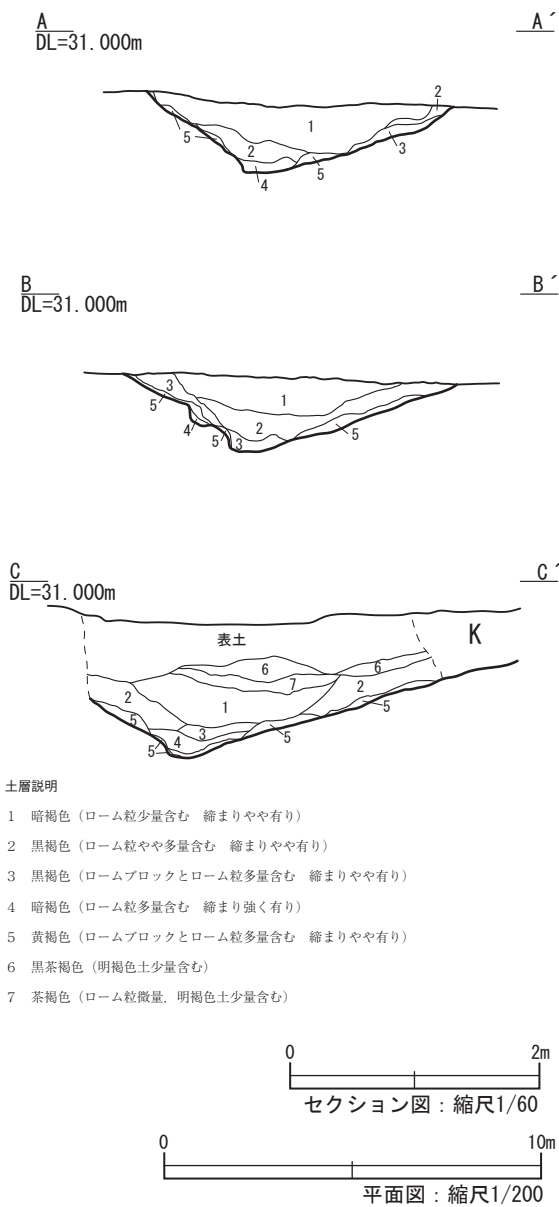


平面図：縮尺1/200

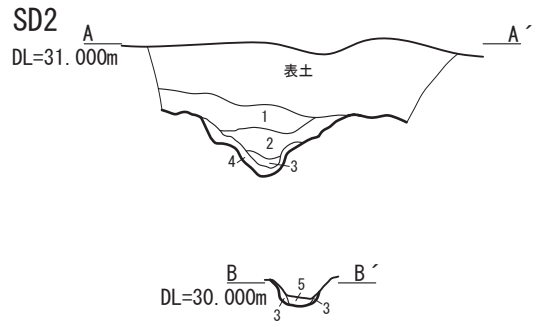
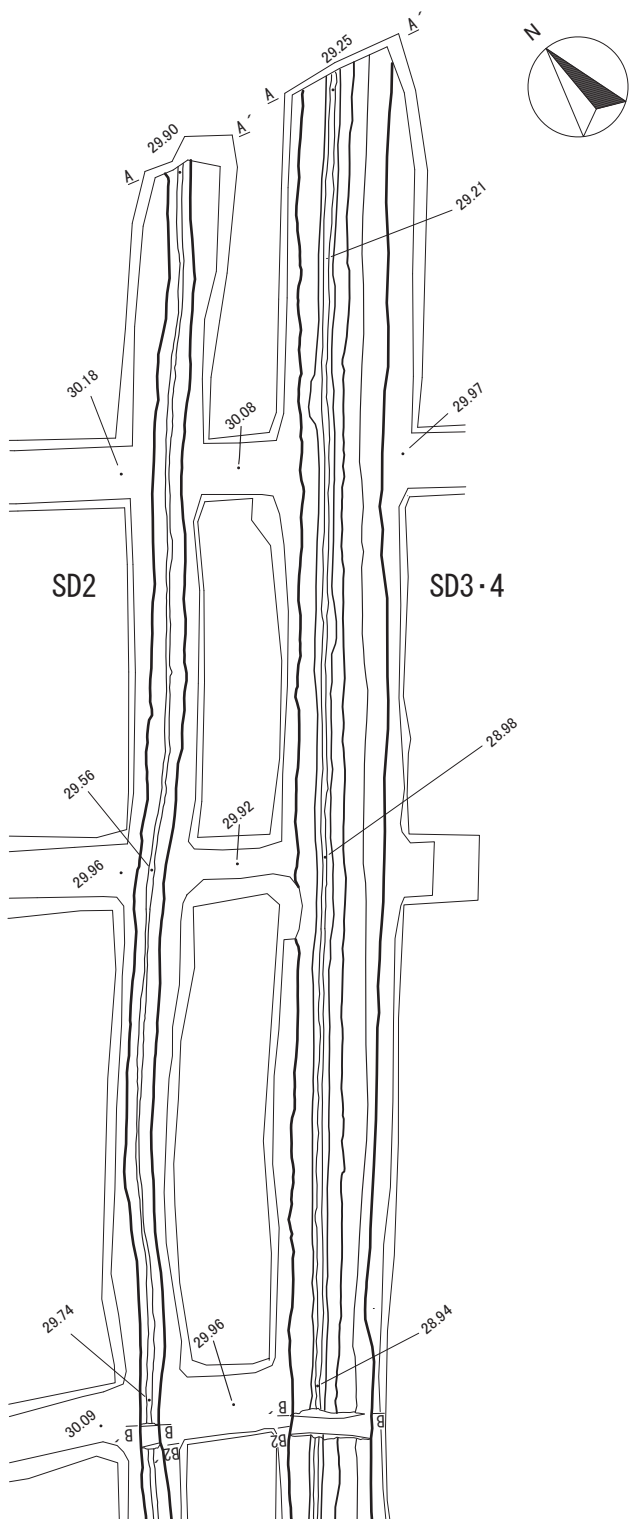
第7図 第7・8次調査区第1号溝跡



第9次調査区第1号溝跡（東から）

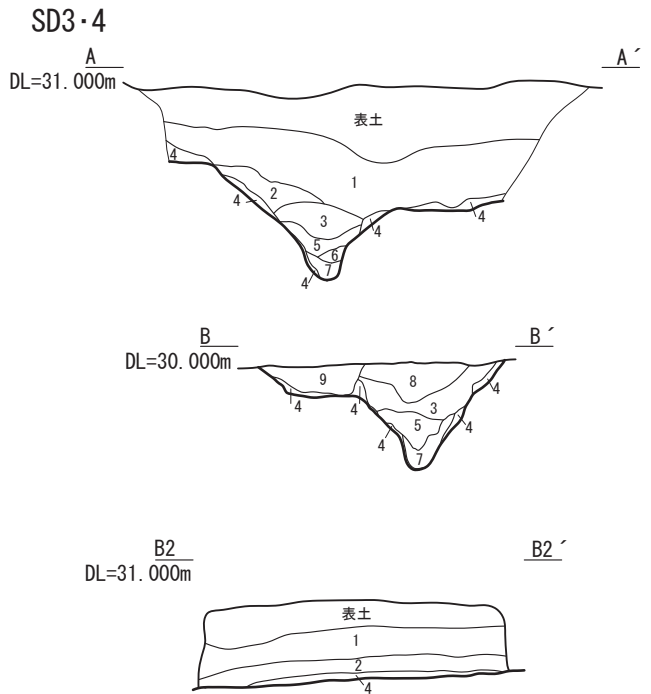


第8図 第9次調査区第1号溝跡



土層説明 (SD2)

- 1 暗褐色 (ロームブロック微量含む)
- 2 暗褐色 (ロームブロック微量, ローム粒少量含む)
- 3 褐色 (ローム粒多量含む)
- 4 明褐色 (ローム土主体)
- 5 黒褐色 (ロームブロック・ローム粒少量含む)



土層説明 (SD3・4)

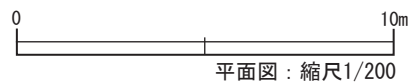
- 1 暗褐色 (ロームブロック微量含む)
- 2 暗褐色 (ロームブロック微量, ローム粒少量含む)
- 3 黒褐色 (ローム粒少量含む, 締まりややあり)
- 4 明褐色 (ローム土主体)
- 5 黒褐色 (ロームブロック・ローム粒少量含む)
- 6 茶褐色 (ロームブロック・ローム粒多量含む)
- 7 暗褐色 (ローム粒多量含む)
- 8 黒色 (ローム粒微量, 黒ぼく土含む)
- 9 黒色 (ロームブロック少量含む)



第8次調査区第2・3・4号溝跡 (東から)



セクション図：縮尺1/60



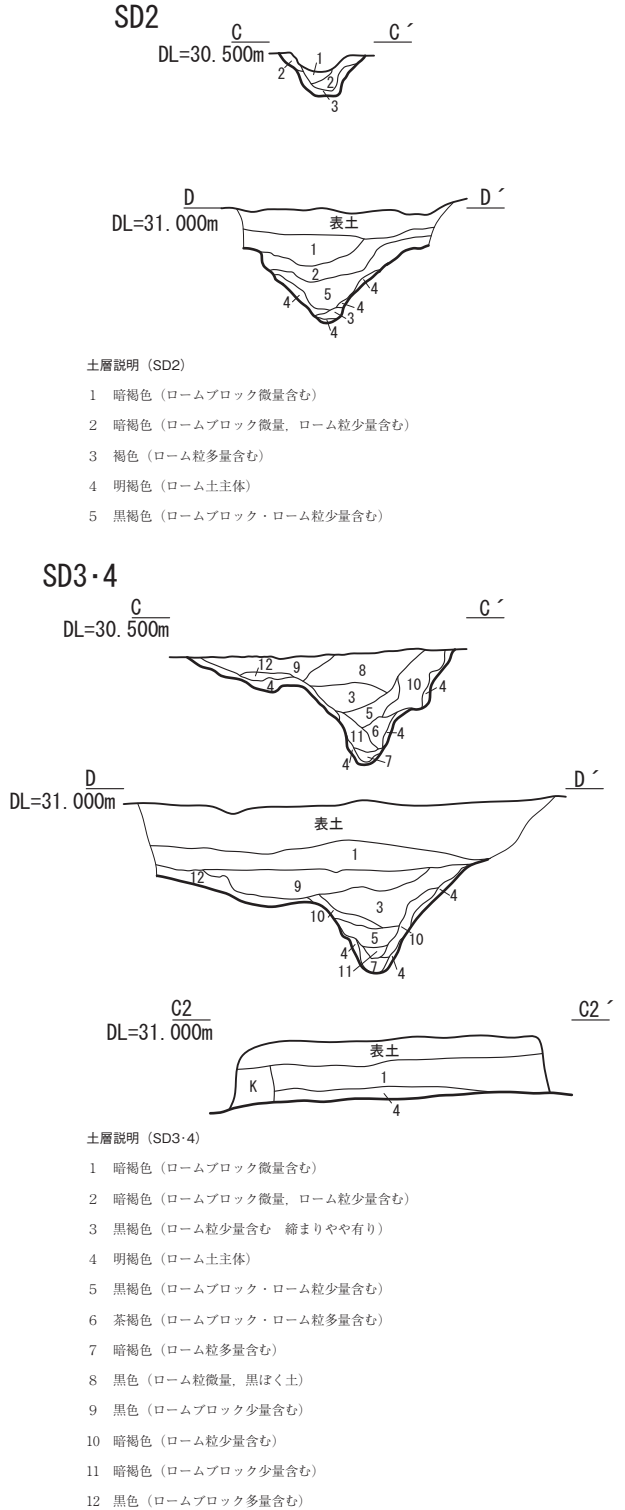
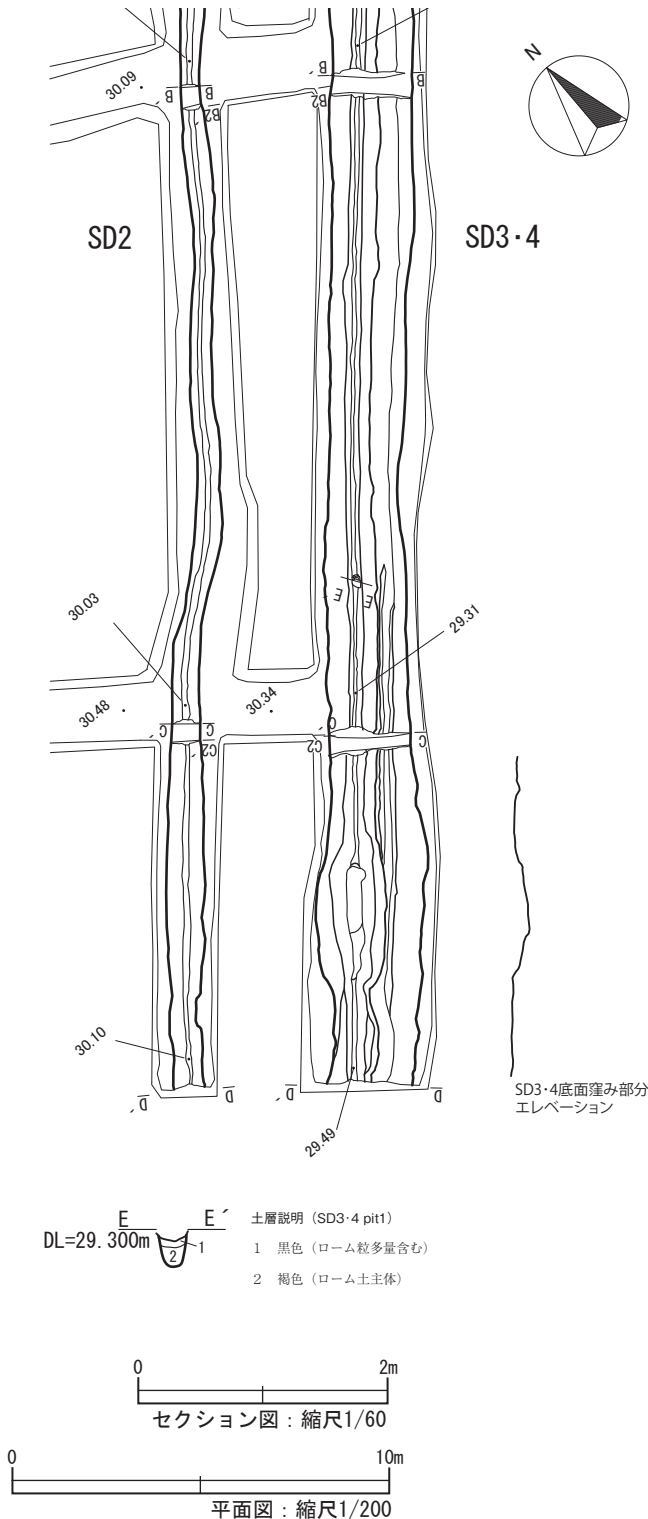
平面図：縮尺1/200

第9図 第8次調査区第2・3・4号溝跡1

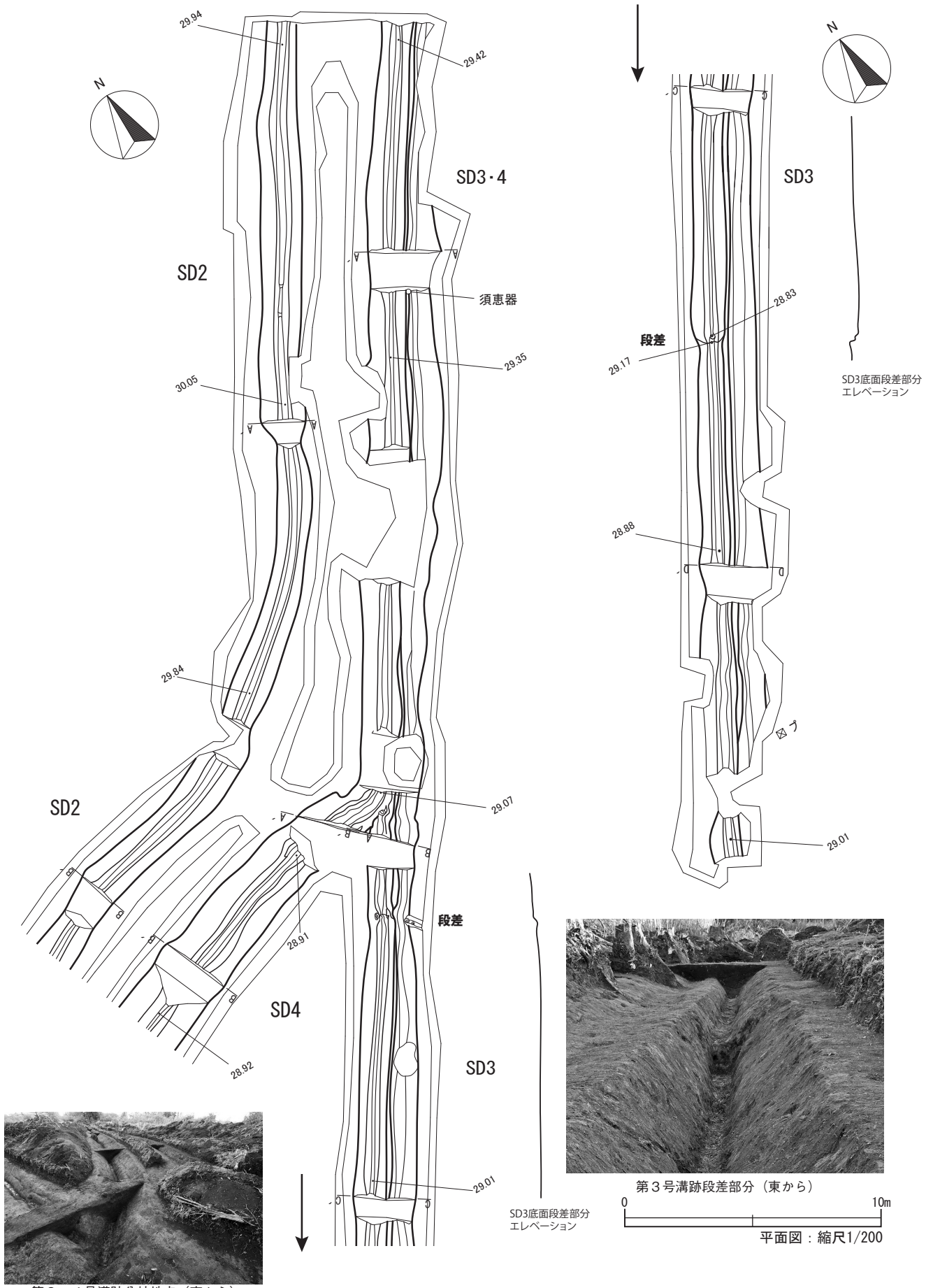
(2) 第2号溝跡 (SD2)

遺構 第2号溝跡は調査区の中央に位置しており、東からN-140° - Wの方向に向かい、約83mの所で緩やかに屈曲し、N-115° - Wの方向に延びている。直線的ではなく、やや蛇行している。一部切り株の部分は調査できなかった。確認面での幅約0.6-1.8mで、確認

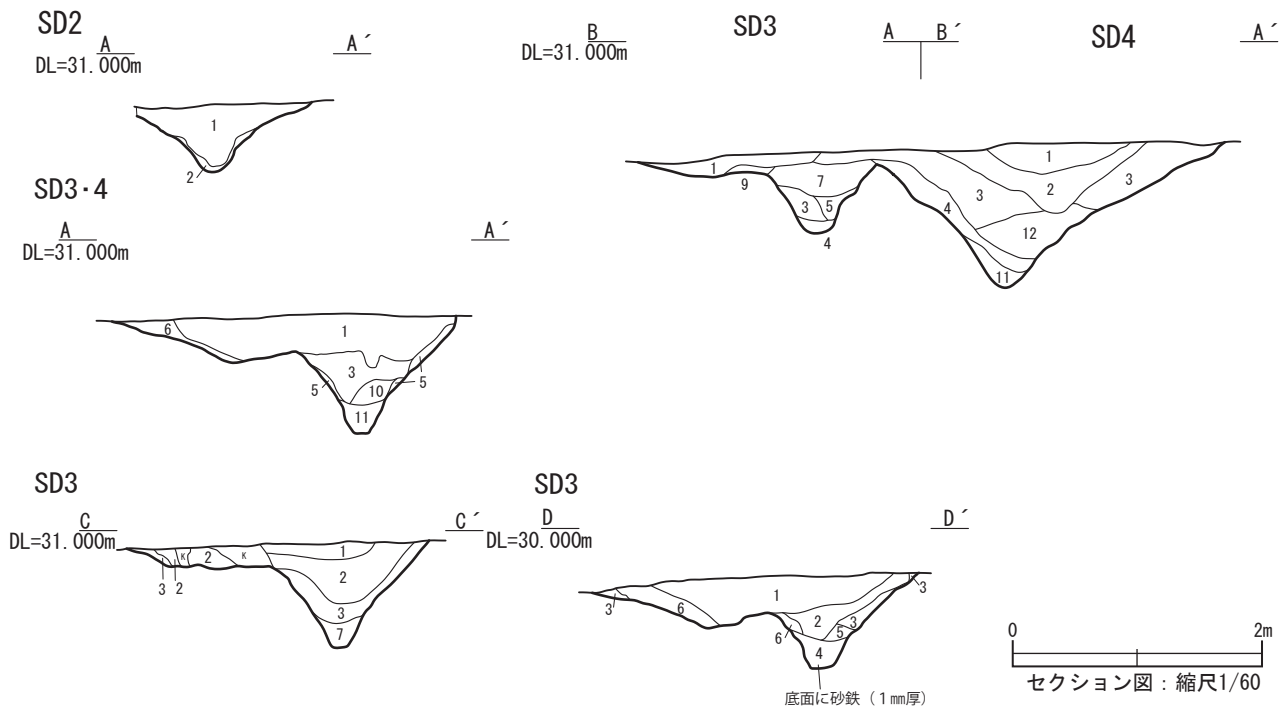
面からの深さ約0.3-0.6m、調査区内で検出された長さは約169mを測る。東端と西端の底面での標高差は、ほとんどない。その断面形をみると、U字状を呈するが、部分的にY字状となる部分がある。遺構に伴う遺物は出土しなかったが、覆土上層から須恵器の大甕と思われる胴部片が数点出土した(図版8)。



第10図 第8次調査区第2・3・4号溝跡2



第11図 第9次調査区第2・3・4号溝跡1



土層説明 (SD2)

- 1 黒褐色 (ローム粒少量含む)
- 2 褐色 (ローム粒多量含む)

土層説明 (SD3・4)

- 1 黒色 (ローム粒微量, 黒ぼく土含む 締まり有り)
- 2 黒褐色 (ローム粒少量含む 締まり強く有り)
- 3 暗褐色 (ローム粒多量含む 締まり有り)
- 4 褐色 (ロームブロック・ローム粒多量含む 締まり有り)

- 5 褐色 (ローム粒多量含む 締まり有り)

- 6 黒褐色 (ロームブロック少量, ローム粒多量含む 締まり有り)
- 7 暗褐色 (径3cmほどのロームブロック少量, ローム粒多量含む 締まり有り 人為の埋土か)
- 8 暗褐色 (ローム粒微量含む 締まり有り)
- 9 暗褐色 (ロームブロック・ローム粒多量含む 締まり有り)
- 10 黒褐色 (ローム粒多量含む 締まり有り)
- 11 褐色 (ローム粒多量含む 締まり強く有り)
- 12 黒褐色 (ロームブロック微量, ローム粒多量含む 締まり有り)

第12図 第9次調査区第2・3・4号溝跡2

土層断面を見ると、基本的に黒褐色土が主体で、底面近くに褐色土が堆積する。

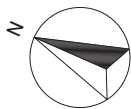
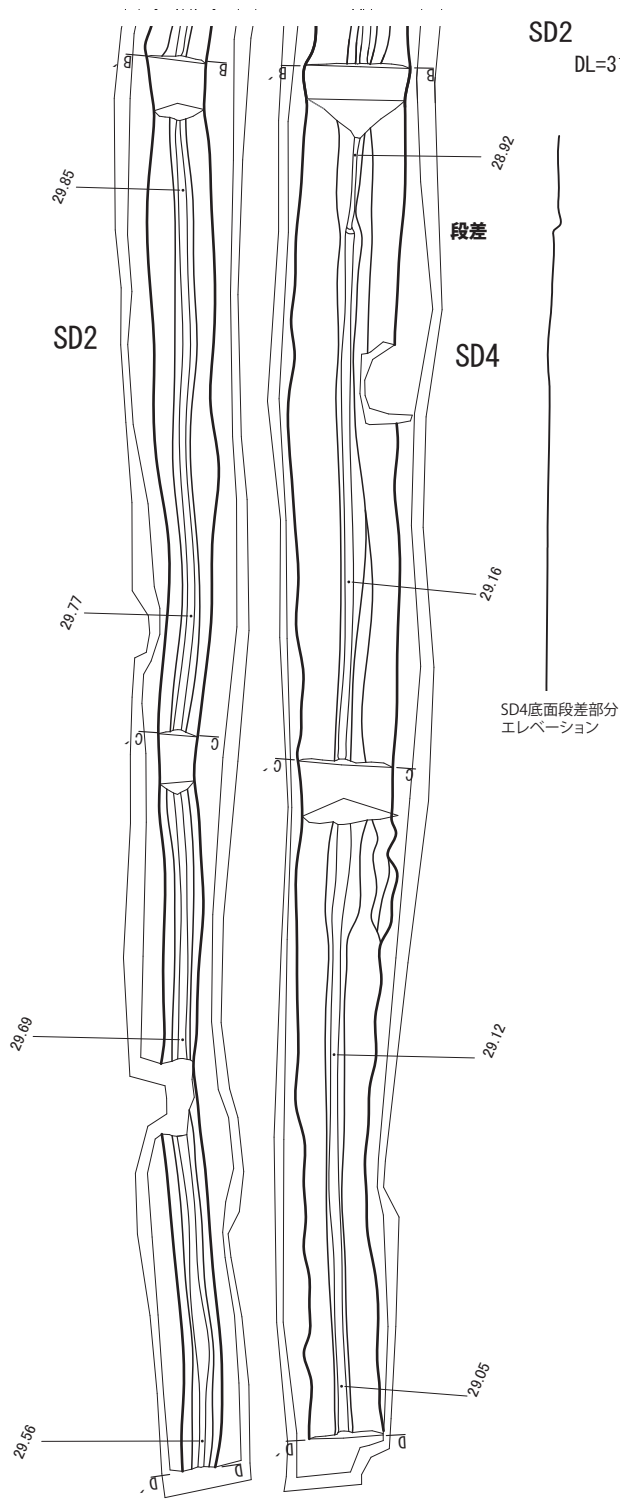
(3) 第3号溝跡 (SD3)

遺構 第3号溝跡は調査区の中央に位置しており、東からN-140° - Wの方向に延びている。一部切り株の部分は調査できなかった。調査区東端から西へ約98mの地点で第4号溝跡が合流しており、新旧関係は第4号溝跡が第3号溝跡より新しく、第4号溝跡が第3号溝跡を再利用していると判断した。確認面での幅は第4号溝跡と重複していない部分では約1.6-2.3mで、確認面からの深さ約0.6-0.8mで、深さは第4号溝跡がより深い。調査区内で検出された長さは第4号溝跡との重複部分を含めて約184mを測る。第4号溝跡と合流する直前と西端の底面での標高差は、約1.4m西端が低い。第10次調査で確認した部分(第15図)は、幅が小さく、掘り込みも浅く、地形から谷津頭付近を横切っており、水が湧く状況であった。溝跡の断面形は、南側から浅く掘

り込み、少しの平坦面を有してU字状に深く掘り込んでいる。南側の浅い部分については、断面観察により第3号溝跡より新しい溝によって掘り込まれているようにも見える。第4号溝跡との分岐地点から第11図C-C'断面とD-D'断面の約21mの間は、底面を約0.3mほど後から掘り込んでいる。遺構に伴う遺物は出土しなかった。

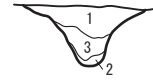
土層断面をみると、上層に黒ぼく土が含まれ、中層に黒褐色土、下層に褐色土が堆積する。第9次調査部分では、底面に所々砂鉄がみられることから、水が流れた痕跡と推測する。第4号溝跡と分岐する部分(第12図A-B)をみると、第3・5・7層は埋め戻された可能性がある。また、第15図の谷津頭部分では、底面ローム土が一部粘土化していた。

なお、第3号溝跡は、1980年代に実施した馬渡埴輪製作遺跡史跡範囲外調査時のトレンチ調査で確認していた溝跡で、今回の調査ではそのトレンチの一部を確認できた。よって、第3号溝跡の西側は、馬渡埴輪製作遺跡



SD2
DL=31.000m

B B' C C'
DL=31.000m



D
DL=31.000m

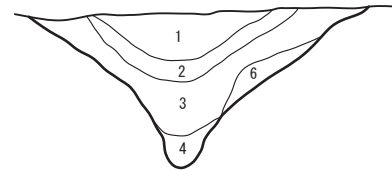
D'



SD4

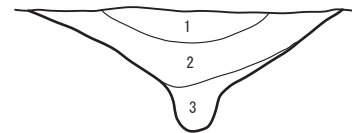
B
DL=31.000m

B'



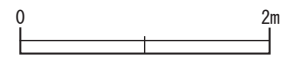
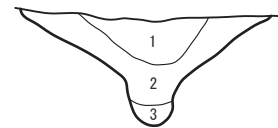
C
DL=31.000m

C'



D
DL=31.000m

D'



セクション図：縮尺1/60



平面図：縮尺1/200

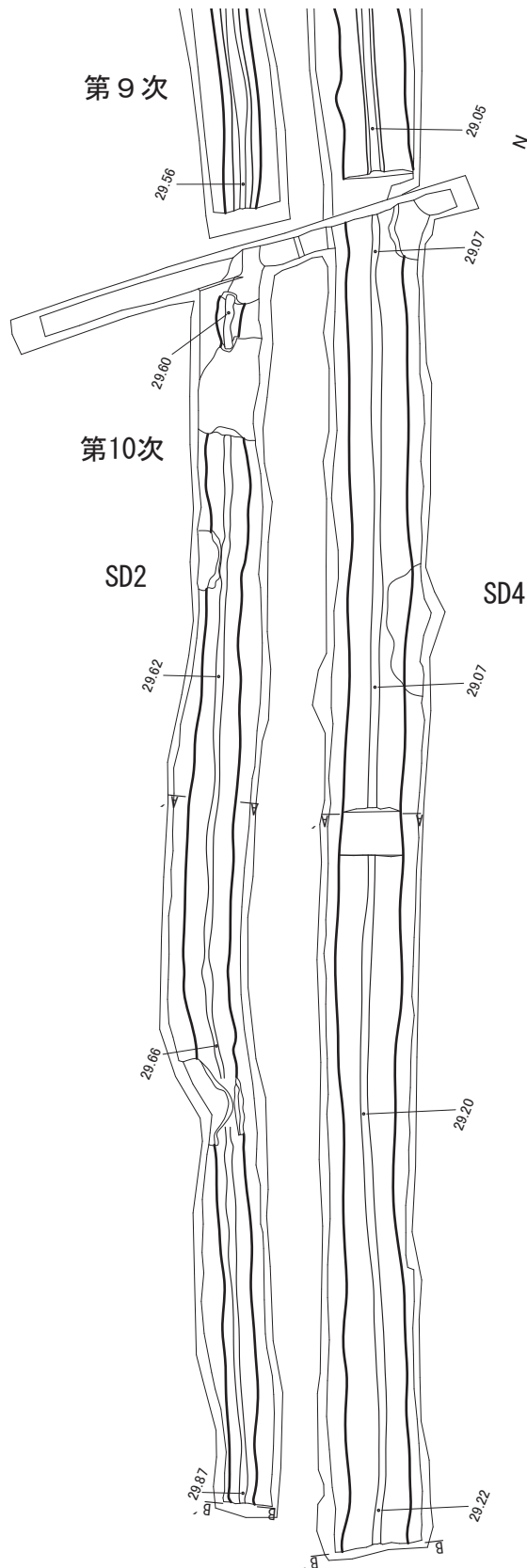
土層説明 (SD2)

- 1 黒褐色 (ローム粒少量含む)
- 2 褐色 (ローム粒多量含む)
- 3 暗褐色 (ローム粒多量含む)

土層説明 (SD4)

- 1 黒色 (ローム粒微量, 黒く土含む 締まり有り)
- 2 黒褐色 (ローム粒少量含む 締まり強く有り)
- 3 暗褐色 (ローム粒多量含む 締まり有り)
- 4 褐色 (ロームブロック・ローム粒多量含む 締まり有り)
- 6 黒褐色 (ロームブロック少量, ローム粒多量含む 締まり有り)

第13図 第9次調査区第2・4号溝跡



SD2

DL=30.500m



DL=30.500m

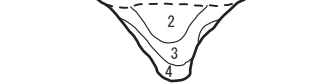


土層説明 (SD2)

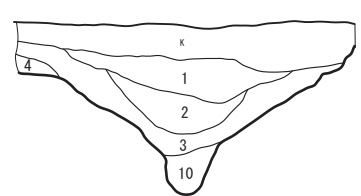
- 1 黒褐色 (ローム粒少量含む)
- 2 褐色 (ローム粒多量含む)
- 3 暗褐色 (ローム粒多量含む)

SD4

DL=30.000m

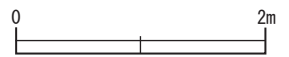


DL=30.000m

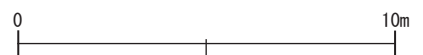


土層説明 (SD4)

- 1 黒色 (ローム粒微量, 黒ぼく土含む 締まり有り)
- 2 黒褐色 (ローム粒少量含む 締まり強く有り)
- 3 暗褐色 (ローム粒多量含む 締まり有り)
- 4 褐色 (ロームブロック・ローム粒多量含む 締まり有り)
- 10 黒褐色 (ローム粒多量含む 締まり有り)



セクション図：縮尺1/60



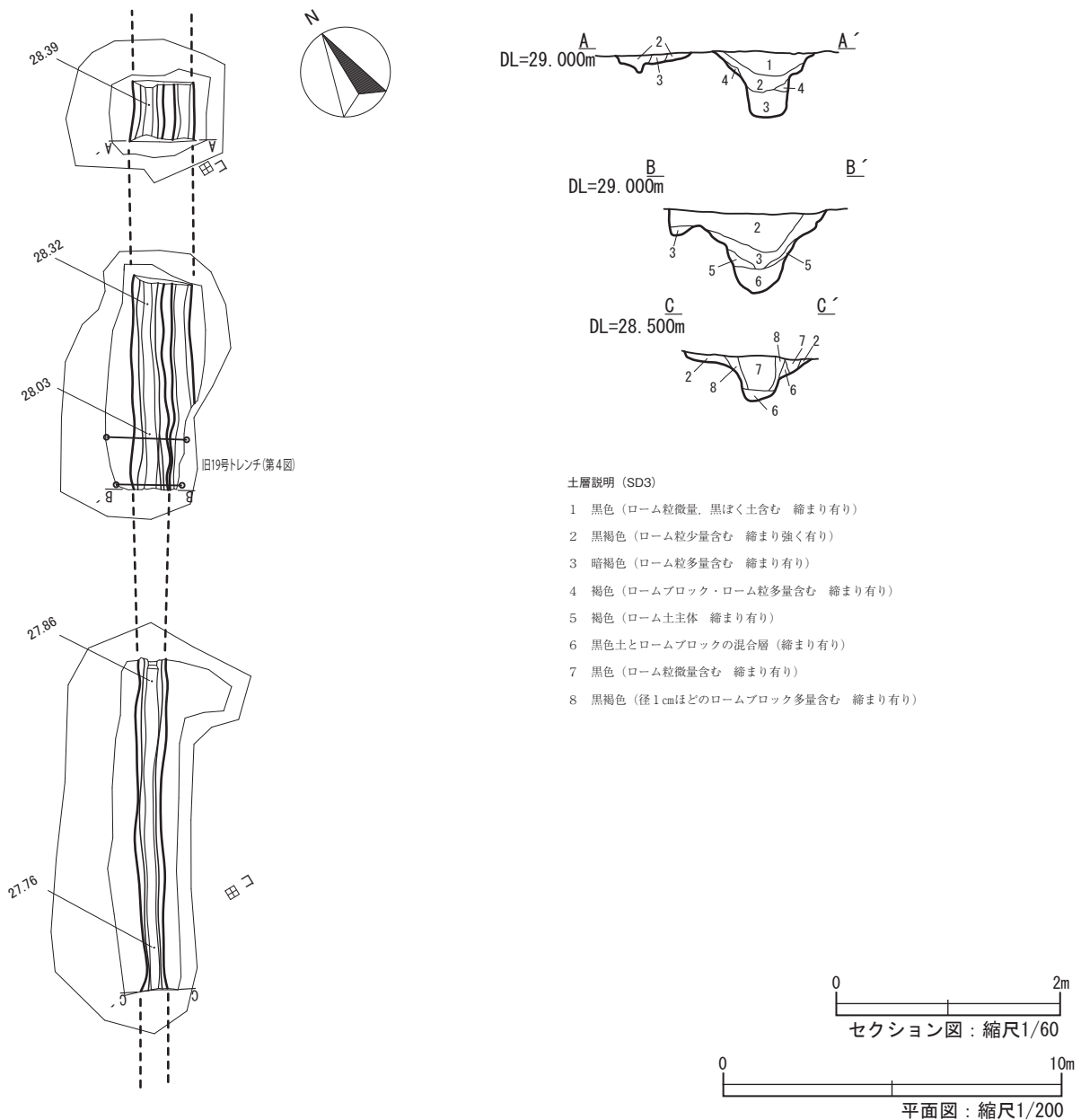
平面図：縮尺1/200

第14図 第10次調査区第2・4号溝跡

内に延びる溝となる。

(4) 第4号溝跡 (SD4)

遺構 第4号溝跡は調査区の中央に位置しており、東から N -140° - W の方向に向かい、約 98 m の所で屈



第15図 第10次調査区第3号溝跡

曲し、N -115° - Wの方向に延びている。これはほぼ第2号溝跡と併行している。一部切り株の部分は調査できなかった。確認面での幅は第3号溝跡と重複していない部分では約1.6-2.7mで、確認面からの深さ約0.8-1.2m、調査区内で検出された長さは第3号溝跡との重複部分を含めて約182mを測る。東端と西端の底面での標高差は、ほとんどない。その断面形をみると、上部は傾斜が緩く、幅の狭い底面から0.3m程はほぼ垂直に掘り込まれていて、ロート状を呈する。

第8次調査区の西端付近では、溝が楕円状に広がって窪んでいることを確認した。楕円の大きさは長軸約4.0m、短軸約1.9mで、溝跡の底面から約0.5m掘り込ん

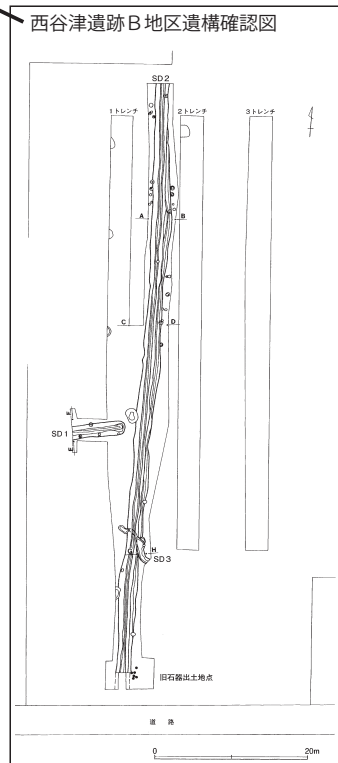
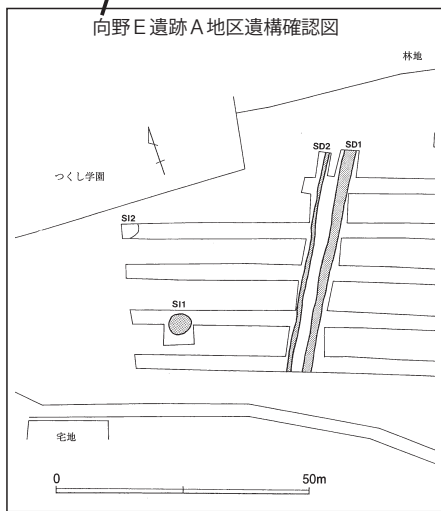
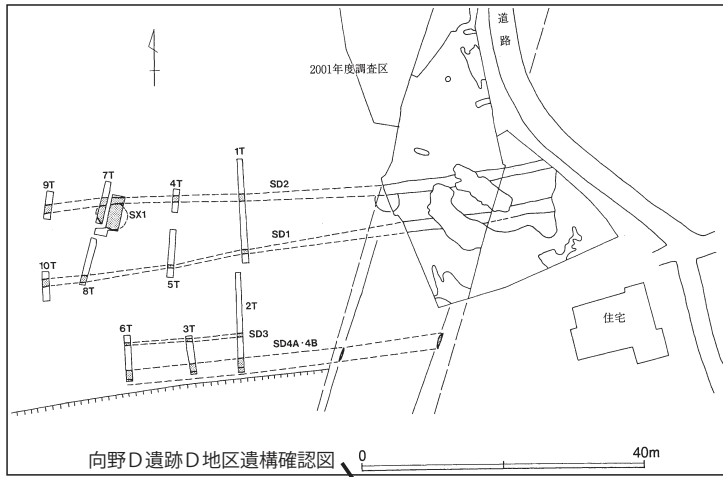
でいる。この楕円状の窪みの性格については不明である。また、この窪みの東側には、ピットを1基確認した。

第3号溝跡との分岐地点近くの第13図B-B'断面から西側は底面が約0.3mほど浅くなっている。

溝跡の底面部分には、スコップ状の道具の掘削痕を確認できる場所があり、底面を平坦に仕上げておらず、凸凹が連続してみられる部分があった。その痕跡からは、底面付近の幅0.3mほどの垂直の掘り込みは、その幅が掘り込む際に使用された道具の幅であることも判る。

遺構に伴う遺物は出土しなかったが、覆土上層から須恵器の大甕と思われる胴部片が数点出土した。

土層断面をみると、上層に黒ぼく土があり、中層に黒



第16図 向野遺跡群で確認した溝跡の関係性

褐色土、下層に暗褐色土が堆積する。

(5) 溝跡について

向野遺跡群の既存の調査でも、溝跡を確認している。しかし、部分的な調査であるため、それぞれの溝跡の関係については不明であった。今回の調査により、広い範囲で溝跡を調査したことにより、過去の調査の間を埋めることができた。溝跡の断面形や覆土の共通性、溝跡の検出状況などから、過去の調査で確認した溝跡と今回の調査で確認した溝跡を関連付けたものが第16図である。

第1号溝跡については、中世の「鎌倉街道」に伴う溝跡の可能性を示したが、今回の調査区の東に延長した部分、向野D遺跡D地区では第1号溝跡と第2号溝跡が併行して東西方向に延びており、今回確認した第1号溝跡は向野D遺跡の第1号溝跡につながるものと推定した。

第2号溝跡と第4号溝跡については、東の延長線上には向野D遺跡D地区の第3号溝跡と第4号溝跡と、西の延長線上には向野E遺跡A地区の第1号溝跡と第2号溝跡と関連するものと考えた。つまり、第2号溝跡は向野D遺跡第3号溝跡と向野E遺跡第2号溝跡につながり、第4号溝跡は向野D遺跡第4号溝跡と向野E遺跡第1号溝跡につながるものと推定した。

第3号溝跡については、すでに指摘したように馬渡埴輪製作遺跡史跡範囲外調査時のトレンチ調査で確認していた溝跡であり、馬渡埴輪製作遺跡の南の延長線上にある西谷津遺跡B地区の第2号溝跡につながるものと推定した。

以上のように、今回の調査により、これまでの調査で

確認していた溝跡の関係を明らかにできたことは大きな成果である。しかし、第1号溝跡以外の溝跡については、遺物が伴わないことなどから依然として溝の設置に関わる歴史的背景については解明できてはいない。敢えてその可能性を探るとすると、溝跡の規模や断面形から、中世の溝跡が考えられる。

中世の溝跡については、断面形が逆台形やV字形、箱薬研などと表現されるが、上方が大きく開くという共通の特徴を示しているとされ、この形状は中世に特有のものではないかと考察されている[洪江1992]。向野A遺跡の第2・3・4号溝跡の断面形は、この形状に合致する。

第2・3・4号溝跡を中世の所産とすると、向野遺跡群の南東に位置する大山館跡との関係がみえてくる(第16図)。大山館跡については、本郷川に突き出した台地に土塁を巡らせた方形単郭の館が築かれた(『勝田市史中世編近世編』[志田1978])とあるが、詳細は不明である。大山館跡と溝跡の関係をみると、第16図で示したように溝跡は大山館跡の周辺に巡っているようにもみえる。さらに、中世の溝については、洪江が中世村落景観復原として区画溝の可能性を指摘している[洪江1992]。それによると、区画溝は「河川に面して河川沿いの平地から背後の丘陵上までを領域として囲むというのが基本的なあり方と思われる」としている。このような指摘から、今回確認した第2・3・4号溝跡については、大山館跡と関連し、中世村落の区画溝という視点を設定したい。



第17図 鎌倉街道推定路線 ([飛田2018]・地図は国土地理院ウェブサイトより)

(6) 鎌倉街道について

ひたちなか市の鎌倉街道については、飛田英世が「ひたちなか市の鎌倉街道」[飛田 2018] で検討している。それによると、『勝田市史 中世編近世編』において志田諄一が馬渡地区の「鎌倉街道」について述べたことで認知されることになり、「沢田→大沼→追分→向野」の道筋が記されていた[志田 1978]。その文献をもとに、飛田が調査を実施した結果、鎌倉街道の起点(終点)を海岸部で確認された大規模な製塩遺構を伴う沢田遺跡とし、天文 10(1541)年銘のある経筒が出土した大沼経塚を経て、向野地区に向かうことを明らかとした。また、鎌倉街道の役割については、沢田の製塩業と関連していたことも指摘している。

今回の調査は、志田と飛田の指摘を裏付けるように、鎌倉街道の西へ向かう路線を第 17 図のように向野 A 遺跡で確認したことになり、溝跡の設置に関わる歴史的背景が明らかとなった。

(7) 性格不明遺構

第 9 次調査の南側の調査区において、性格不明の遺構 2 基を確認した(第 18 図)。この場所は第 4 次調査の F 地区 C 区の補足調査として実施した地点であり、縄文時代の陥穴状遺構などを確認していた。

検出した SX 1・2 は、第 16 号トレンチ内で確認したもので、遺構の平面形は歪んだ円形で、一部掘り下げを行った部分の床面は平坦ではなく、覆土も地山のローム土が上層で黒土が下層となっており、それらのことから風倒木跡の可能性を考えた。これらの遺構からは縄文時代の遺物が出土している。

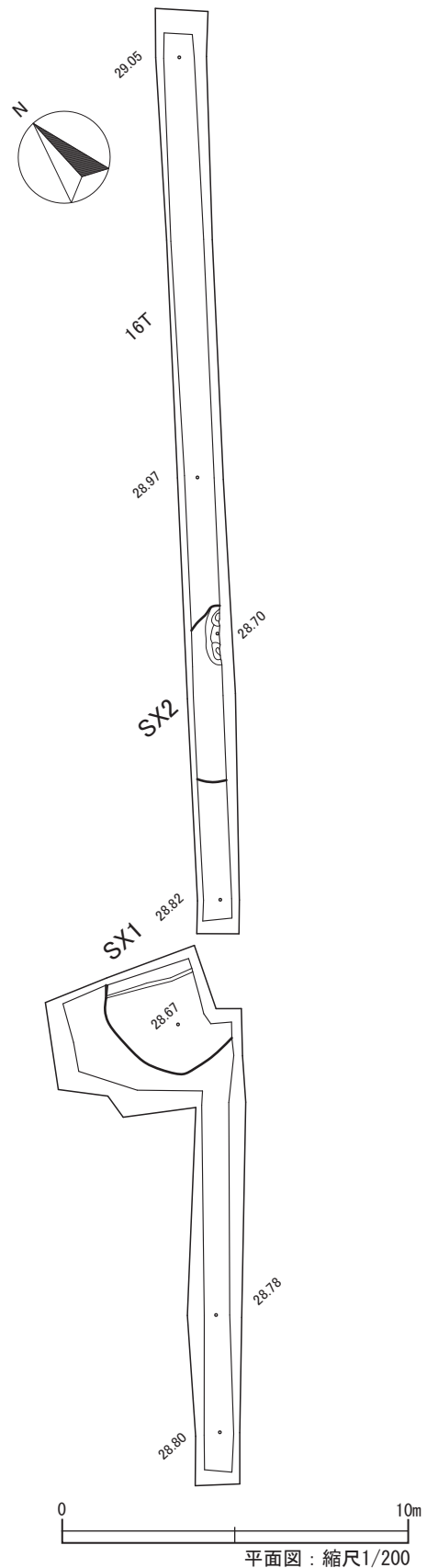
参考文献

志田諄一 1978 「中世編」『勝田市史 中世編近世編』勝田市史編さん委員会

渋谷芳浩 1992 「中世区画溝に関する覚書-中世東国における村落景観復原の手がかりとして-」『東京考古』10号 東京考古談話会

白石真理ほか 2007 『向野遺跡群』財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社

飛田英世 2018 「ひたちなか市の鎌倉街道」『常総中世史研究』第 6 号 茨城大学中世史研究会



第 18 図 性格不明遺構

IV 旧石器・縄文時代の遺物

向野 A 遺跡第 7～10 次調査では、表土及び溝跡の覆土、性格不明遺構から、旧石器・縄文の各時代の遺物が検出された。

1 旧石器時代の遺物

ローム土の付着や風化の状態から旧石器時代のものと考えられる石器類が、SD1～SD3 で出土している（第 19 図）。時期は、完形の尖頭器（図 19-1・2）は観察から旧石器時代終末期と考えられる（橋本勝雄氏観察による）。その他の石器は、ローム土の付着などから旧石器時代と考えられるが、詳細な時期は不明である。

以下に、石器の各資料について計測と観察を記載する。

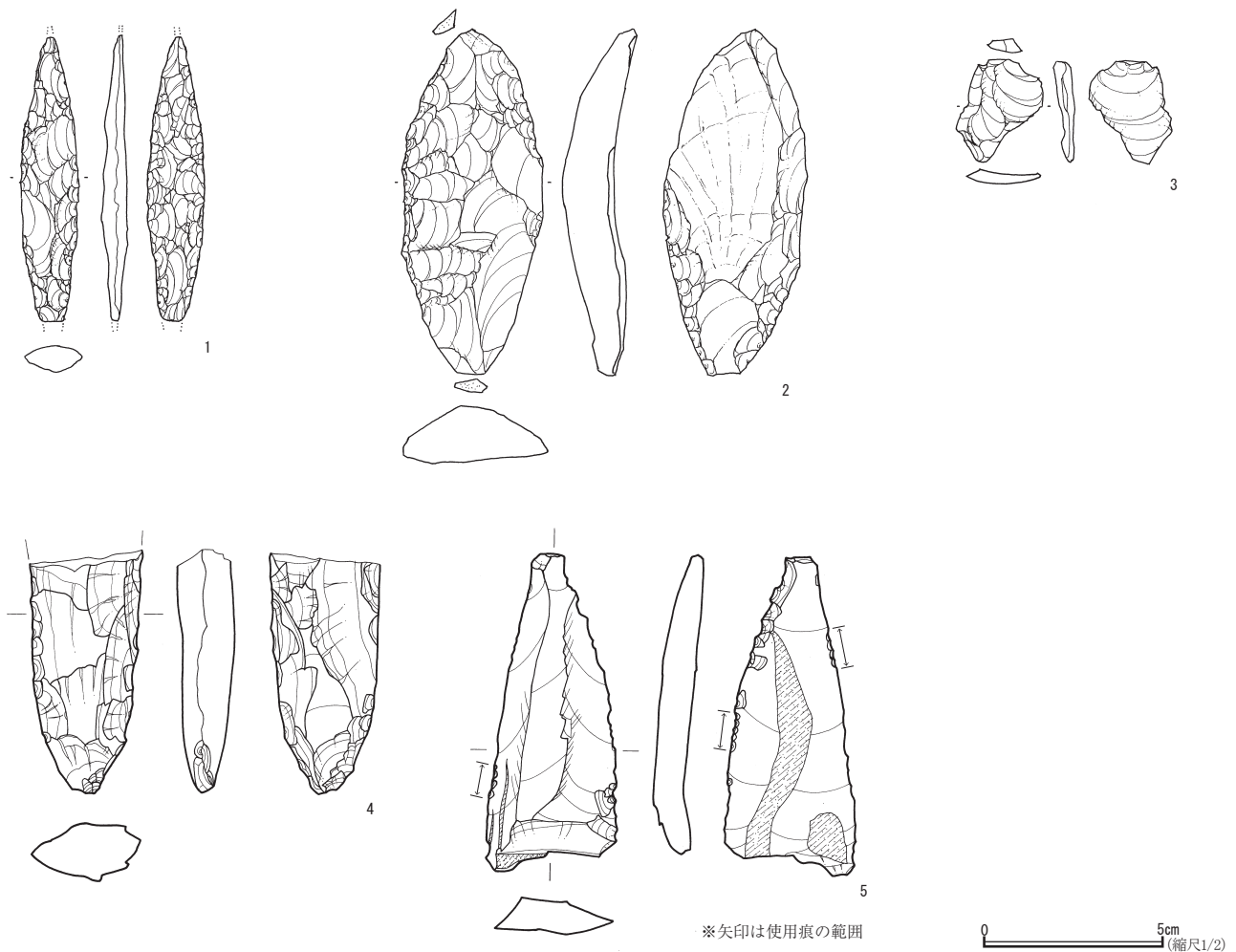
1 台帳：8 次 SD1 材質：ガラス質黒色安山岩 器種：本ノ木型尖頭

器 残存：上下両端部欠失 法量：長 8.0 cm, 幅 1.6 cm, 厚さ 0.8 cm, 重量 9.24g 技法等：細身で二側縁がほぼ平行。断面形は凸レンズ状。素材は不明。両面加工で比較的精密な加工がされている。また裏面下部左側に基部整形のための部分加工が加えられている。特徴：裏面下部中央に黒色付着物が残存している。備考：ひたちなか市内の本ノ木型の類梯としては、他に鷹ノ巣遺跡の出土資料がある。

2 台帳：8 次 SD1 材質：ガラス質黒色安山岩 器種：木葉形尖頭器 残存：完形 法量：長 9.7 cm, 幅 3.9 cm, 厚さ 1.5 cm, 重量 57.17g 技法等：幅広く断面がかまぼこ形。側面は裏面に向かってやや湾曲している。素材は幅広い剥片。半両面加工で比較的粗雑な加工が施されている。特徴：裏面端部がやや摩滅している。備考：全体的な形状から尖頭器というよりも削器の可能性が高い。

3 台帳：8 次 SD2 材質：メノウ 器種：剥片 残存：完形 法量：長 3.0 cm, 幅 2.1 cm, 厚さ 0.5 cm, 重量 2.29g 技法等：平坦打面を有する横長剥片。特徴：— 備考：—

4 台帳：9 次 SD1-2 区 材質：白雲母石英片岩 器種：尖頭器カ 残



第 19 図 調査区出土の旧石器

存：2分の1程度 法量：長6.8cm, 幅3.1cm, 厚さ1.6cm, 重量43.8g
5 台帳：10次SD3Ⅱ区 材質：流紋岩 器種：削器 残存：完形 法量：
長8.9cm, 幅3.7cm, 厚さ：0.9cm, 重量33.9g 備考：一部に使用痕がみ
られる。また、表面にはローム土が付着している。

※石材の鑑定は、第19図1～3は橋本勝雄氏、4・5は矢野徳也氏によ
るものである。

参考文献

稲田健一 2013 『鷹ノ巣Ⅱ-第2・3次調査の成果-』 公益財団法人
ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

橋本勝雄 2019 「本ノ木型尖頭器の特質とその意義-常陸大宮市内発
見の旧石器の資料的位置づけ-」『常陸大宮市史研究』第2号 83
- 103頁

2 縄文時代の土器

縄文時代の土器は、第7・9・10次の調査区から出
土した。特に、第9次の性格不明遺構と第16号トレン
チから多量の縄文土器が出土している。ほとんどが中期
の加曽利E3式期のものであるが、一部に前期・後期に属
すると思われる土器片がある。しかし、残りが悪いため
詳細は不明である。

加曽利E3式期の土器のほとんどが、加曽利E3式の土
器群であり、器外面を微隆線文や沈線文で縦を基本とし
た区画を施し、その中に縄文を充填する特徴がある。縄
文の施文は縦回転を基本としている。僅かに、口縁部文
様帯に隆帯で渦巻文が施されたものや、縦方向に沈線
文で区画された縄文帯と無文帯の特徴をもつ、加曽利
E1・2式と考えられるものがある。また、加曽利E3式
の土器群は、性格不明遺構と第16号トレンチで多くが
出土しており、加曽利E1・2式の土器群は溝跡の覆土
から出土する傾向がみられた。

以下に、土器の各資料について計測と観察を記載する。

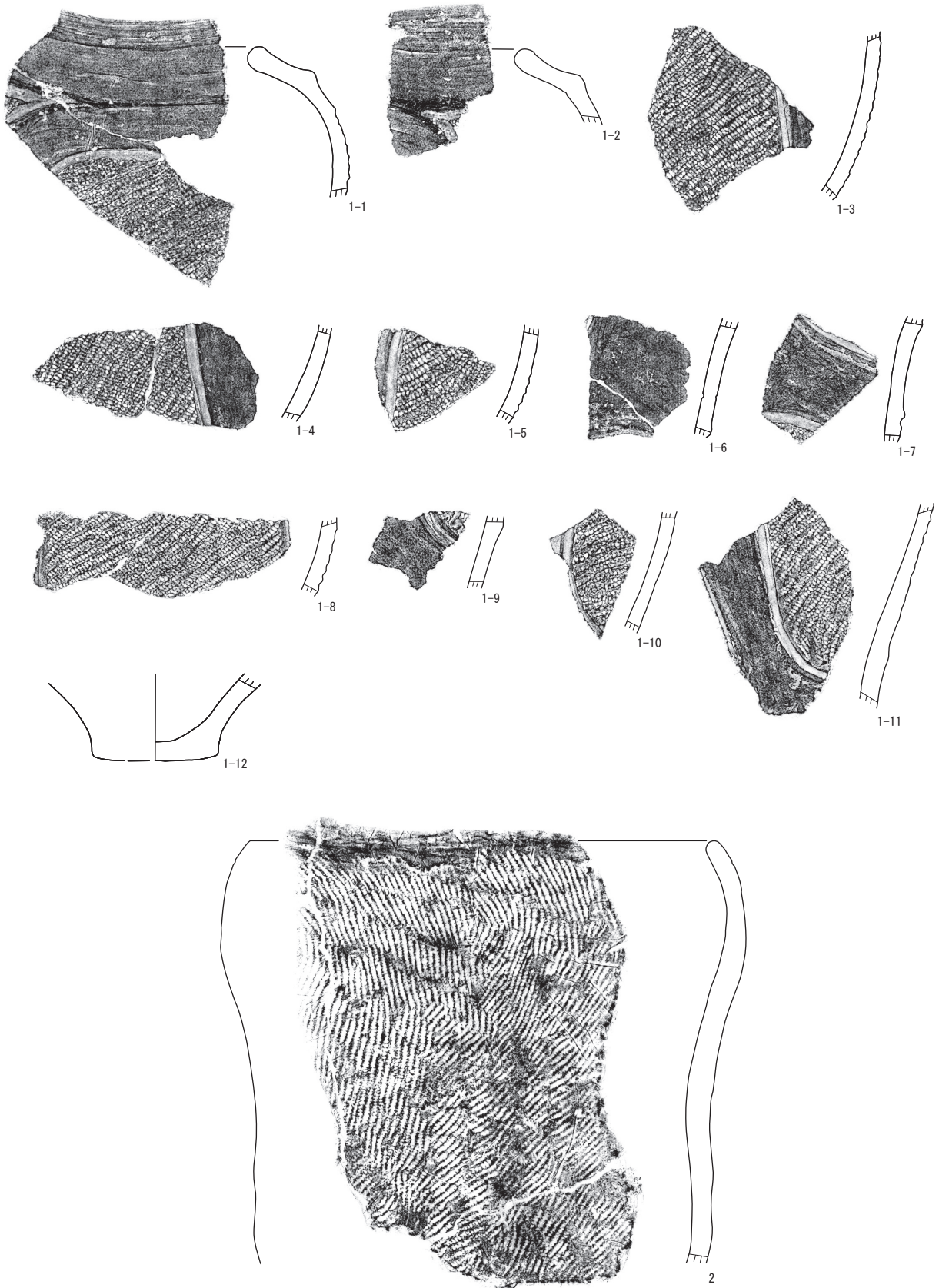
第20図

1-1 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曽利
E3式） 器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 沈線文, 単節斜縄文 (RL)
備考：器内外面磨き, 胎土に黒色細粒含む 1-2 出土位置・注記：
9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曽利E3式） 器種：深鉢形
土器 文様：隆線文, 沈線文 備考：器内外面磨き 1-3 出土位置・
注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曽利E3式） 器種：
深鉢形土器 文様：沈線文, 単節斜縄文 (RL) 備考：胎土に微量の金

雲母, 黒色細粒を含む, 器内面が白く変色 1-4 出土位置・注記：9
次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曽利E3式） 器種：深鉢形土
器 文様：沈線文, 単節斜縄文 (RL) 備考：器外面磨き, 器内面白く
変色, 器内面と破断面にネズミの齧り痕 1-5 出土位置・注記：9次
16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曽利E3式） 器種：深鉢形土器
文様：沈線文, 単節斜縄文 (RL) 備考：器外面磨き 1-6 出土位
置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曽利E3式） 器
種：深鉢形土器 文様：沈線文 備考：器外面磨き, 炭化物付着 1-7
出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曽利E3
式） 器種：深鉢形土器 文様：沈線文, 単節斜縄文 (RL) 備考：器外
面磨き 1-8 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期
（加曽利E3式） 器種：深鉢形土器 文様：沈線文, 単節斜縄文 (RL)
1-9 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曽利
E3式） 器種：深鉢形土器 文様：沈線文, 単節斜縄文 (RL) 備考：
器外面磨き 1-10 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時
代中期（加曽利E3式） 器種：深鉢形土器 文様：沈線文, 単節斜縄文
(RL) 備考：器外面磨き 1-11 出土位置・注記：9次16トレ 時代
時期：縄文時代中期（加曽利E3式） 器種：深鉢形土器 文様：沈線文,
単節斜縄文 (RL) 備考：器外面磨き 1-12 出土位置・注記：9次
16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曽利E3式） 器種：深鉢形土器
法量：底径64mm（残存率47%） 備考：器内外面磨き, 胎土に金雲母含む,
器内面炭化物付着 2 出土位置・注記：9次SX1 時代時期：縄文時
代中期（加曽利E3式） 器種：深鉢形土器 法量：口径240mm（残存率
74%） 文様：単節斜縄文 (RL) 備考：器内面磨き, 器外面一部に炭化
物付着

第21図

1 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曽利
E2式カ） 器種：深鉢形土器カ 文様：口縁部刺突文, 沈線文, 単節斜
縄文 (RL) 備考：器外面赤彩カ, 器内面磨き 2 出土位置・注記：
9次SD3-2区 時代時期：縄文時代中期（加曽利E2式カ） 器種：深鉢
形土器 文様：隆線文, 沈線文, 単節斜縄文 (RL) 備考：口唇部器内
面磨き 3 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期
器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 沈線文, 単節斜縄文 (LR) 備考：
口縁部器内面磨き 4 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄
文時代中期（加曽利E3式） 器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 単節斜
縄文 (LR) 備考：器内外面磨き, ネズミの齧り痕複数あり 5 出土
位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曽利E3式）
器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 単節斜縄文 (LR) 備考：口縁部磨き,
破断面にネズミの齧り痕あり 6 出土位置・注記：9次16トレ 時
代時期：縄文時代中期（加曽利E3式） 器種：深鉢形土器 文様：隆線文,



第20図 調査区出土の縄文土器①



第21図 調査区出土の縄文土器②

単節斜縄文 (LR) 備考: 器内面一部磨き 7 出土位置・注記: 9次
16トレ 時代時期: 縄文時代中期 (加曽利 E3 式カ) 器種: 深鉢形土器
文様: 隆線文, 単節斜縄文 (RL) カ 備考: 器内外面磨き 8 出土
位置・注記: 9次 16トレ 時代時期: 縄文時代中期 (加曽利 E3 式カ)
器種: 深鉢形土器 文様: 隆線文, 単節斜縄文 (LR カ) 備考: 器内
外面磨き 9 出土位置・注記: 9次 16トレ 時代時期: 縄文時代中
期 (加曽利 E3 式) 器種: 深鉢形土器 文様: 隆線文, 沈線文, 単節斜

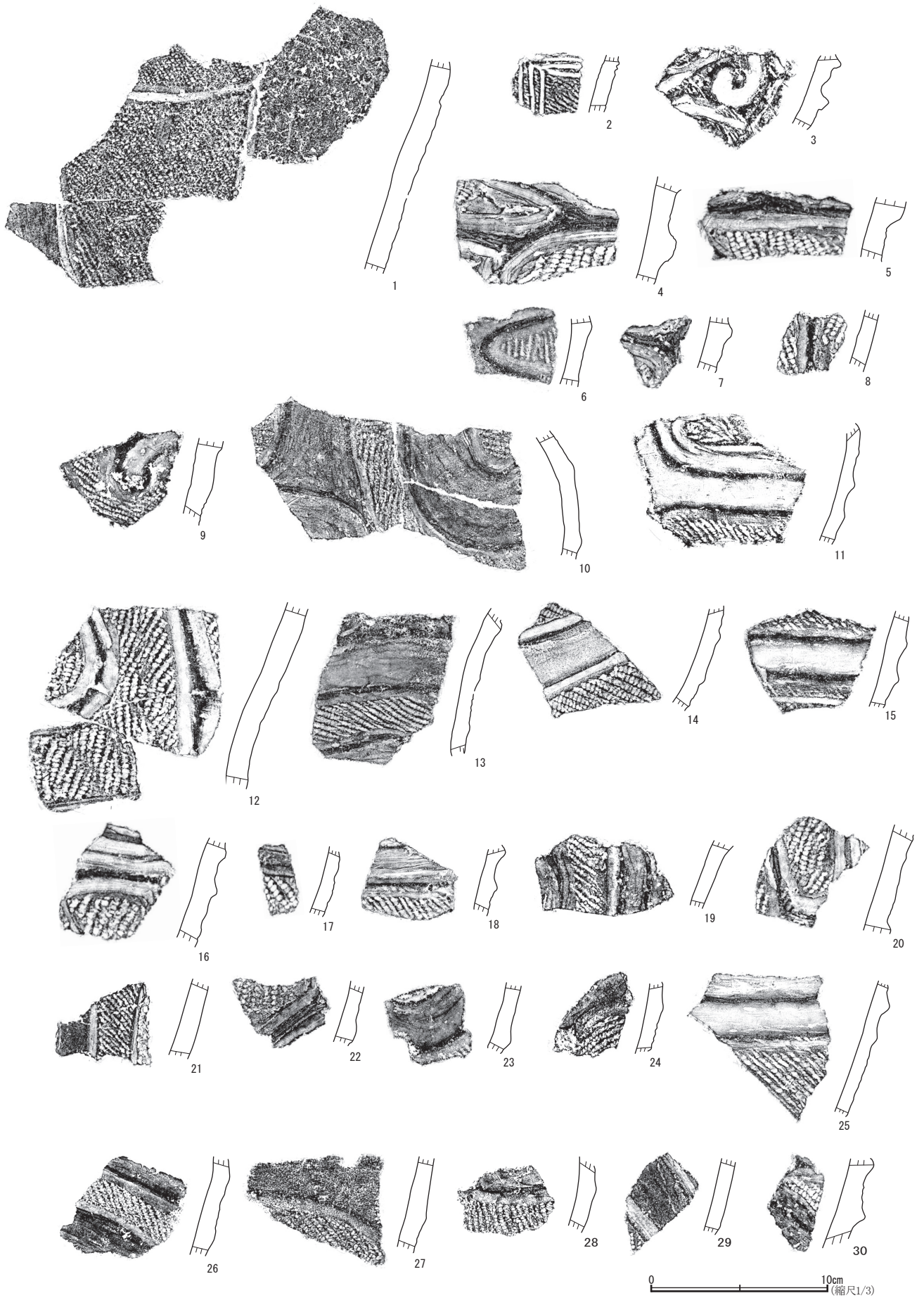
縄文 (LR カ) 備考: 胎土に 3mm 程度の灰色粒含む 10 出土位置・注
記: 9次 16トレ 時代時期: 縄文時代中期 (加曽利 E3 式) 器種: 深
鉢形土器カ 文様: 隆線文, 単節斜縄文 (LR カ) 備考: 器内外面磨き
11 出土位置・注記: 9次 16トレ 時代時期: 縄文時代中期 (加曽
利 E3 式カ) 器種: 深鉢形土器カ 文様: 隆線文 備考: 器内面磨き
12 出土位置・注記: 9次 16トレ 時代時期: 縄文時代中期 (加曽利
E3 式カ) 器種: 深鉢形土器カ 文様: 隆線文 備考: 器内面磨き 13

出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式カ)
器種：深鉢形土器カ 文様：隆線文, 単節斜縄文(LR) 備考：胎土に赤褐色粒含む 14 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 反撚り縄文(RR)カ 備考：隆線文内を磨き 15 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器カ 文様：刺突文カ 備考：全体的にもろい 16 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：沈線文, 単節斜縄文(RL) 備考：器内面磨き, 器外面一部炭化物付着, 胎土に灰色粒多量に含む 17 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：口縁部沈線文, 単節斜縄文(RL) 備考：器内外面磨き 18 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：口縁部沈線文, 単節斜縄文(LR) 備考：器内面磨き, 胎土に黒色粒含む 19 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文(RL) 備考：全体的に摩滅している 20 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式カ) 器種：深鉢形土器 文様：口縁部横ナデ, 単節斜縄文(RL) 備考：全体的に摩滅している 21 出土位置・注記：9次SX1 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式カ) 器種：深鉢形土器 文様：口縁部沈線文, 単節斜縄文(LRカ) 備考：器内面磨き 22 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：口縁部沈線文, 単節斜縄文(RL) 備考：器内面磨き 23 出土位置・注記：9次SX1 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：口縁部沈線文, 単節斜縄文(RLカ) 24 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文(LR) 備考：器内面磨き, 胎土に金雲母微量に含む 25 出土位置・注記：9次SX1 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文(LR) 備考：胎土に黄褐色粒多量に含む 26 出土位置・注記：9次16トレ SX2 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：沈線文, 単節斜縄文(RL) 備考：器内外面磨き 27 出土位置・注記：9次SD3-2区 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式カ) 器種：深鉢形土器カ 文様：口縁部刻み(ヘラ状工具カ), 沈線文カ

第22図

1 出土位置・注記：9次SX1 時代時期：縄文時代中期(加曽利E2式カ) 器種：深鉢形土器 文様：沈線文, 単節斜縄文(RLカ) 備考：第23図17と同一個体カ 2 出土位置・注記：9次SD4-2区 時代時期：縄文時代中期(加曽利E1式カ) 器種：深鉢形土器カ 文様：沈線文,

無節斜縄文(L)カ 備考：器内面磨き 3 出土位置・注記：7次SD1西区 時代時期：縄文時代中期(加曽利E2式カ) 器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 沈線文, 撚糸文(R)カ 4 出土位置・注記：9次SD2-4区 時代時期：縄文時代中期(加曽利E2式カ) 器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 沈線文, 単節斜縄文(RL) 備考：胎土に金雲母含む 5 出土位置・注記：9次SD2 時代時期：縄文時代中期(加曽利E2式カ) 器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 単節斜縄文(LR) 6 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E2式カ) 器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 撚糸文(R)カ 7 出土位置・注記：9次SD2-4区 時代時期：縄文時代中期(加曽利E2式カ) 器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 沈線文, 単節斜縄文(LRカ) 8 出土位置・注記：9次SD2-4区 時代時期：縄文時代中期(加曽利E2式カ) 器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 単節斜縄文(RL) 備考：胎土に金雲母含む, 器内面に炭化物付着 9 出土位置・注記：9次SX1 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：沈線文, 隆線文, 単節斜縄文(RL) 10 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：微隆線文, 単節斜縄文(LR) 備考：胎土に黒色粒含む 11 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 沈線文, 無節縄文(R)カ 12 出土位置・注記：9次SD2 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式カ) 器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 沈線文, 単節斜縄文(RL) 13 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：微隆線文, 単節斜縄文(RL) 14 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：微隆線文, 沈線文, 単節斜縄文(RL) 備考：器内外面磨き 15 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 単節斜縄文(LR)カ 備考：器内外面磨き 16 出土位置・注記：9次SD2 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 沈線文, 単節斜縄文(RL) 備考：器外面磨き 17 出土位置・注記：9次SD2 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式カ) 器種：深鉢形土器カ 文様：沈線文, 単節斜縄文(RL) 備考：器内面変色, 磨き 18 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式カ) 器種：深鉢形土器カ 文様：隆線文, 無節斜縄文(R) 備考：器外面磨き 19 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 単節斜縄文(LR) 備考：器内面磨き 20 出土位置・注記：9次SD2 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式) 器種：深鉢形土器 文様：隆線文, 単節斜縄文(RL) 備考：器外面炭化物付着 21 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曽利E3式カ)



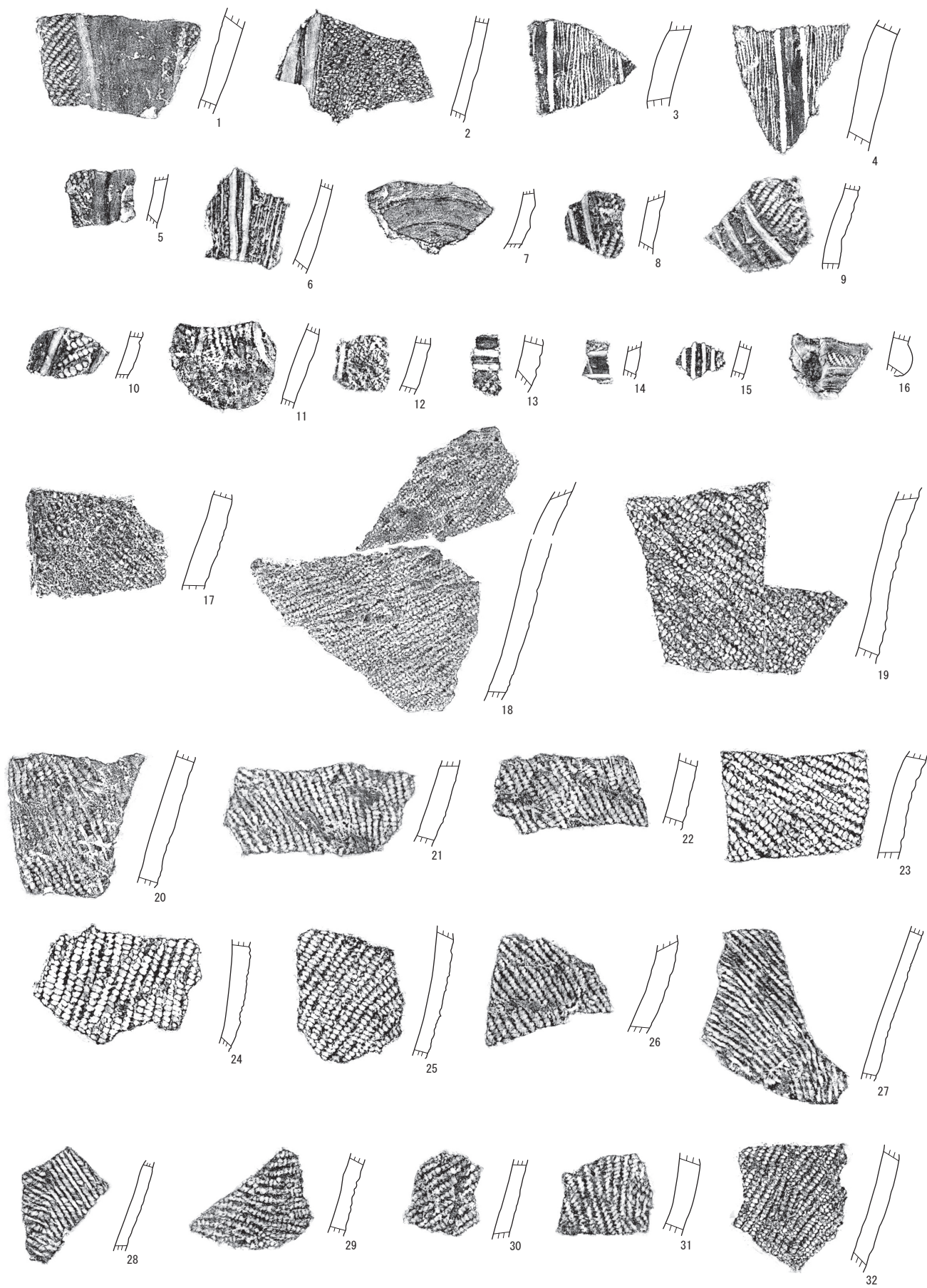
第 22 図 調査区出土の縄文土器③

器種：深鉢形土器 文様：沈線文，無節斜縄文（R）カ 備考：器内面磨き 22 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E3式カ） 器種：深鉢形土器 文様：隆線文，沈線文，単節斜縄文（LR）カ 備考：器内面磨き 23 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E3式カ） 器種：深鉢形土器 文様：隆線文，単節斜縄文カ 備考：器外面磨き 24 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E3式カ） 器種：深鉢形土器カ 文様：隆線文，単節斜縄文（LR）カ 備考：器内外面磨き 25 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E3式カ） 器種：深鉢形土器 文様：隆線文，無節斜縄文（R） 備考：器外面磨き 26 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E3式） 器種：深鉢形土器 文様：隆線文，単節斜縄文（RL） 27 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E3式） 器種：深鉢形土器 文様：微隆線文，単節斜縄文（LR） 28 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E3式カ） 器種：深鉢形土器 文様：微隆線文，単節斜縄文（RL）カ 備考：器内面磨き 29 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E3式カ） 器種：深鉢形土器 文様：沈線文，単節斜縄文（RL）カ 備考：器内外面磨き，胎土に黒色粒多量に含む 30 出土位置・注記：9次SD4 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式） 器種：深鉢形土器 文様：隆線文，単節斜縄文（RL） 備考：器外面磨き，胎土に黄褐色粒含む

第23図

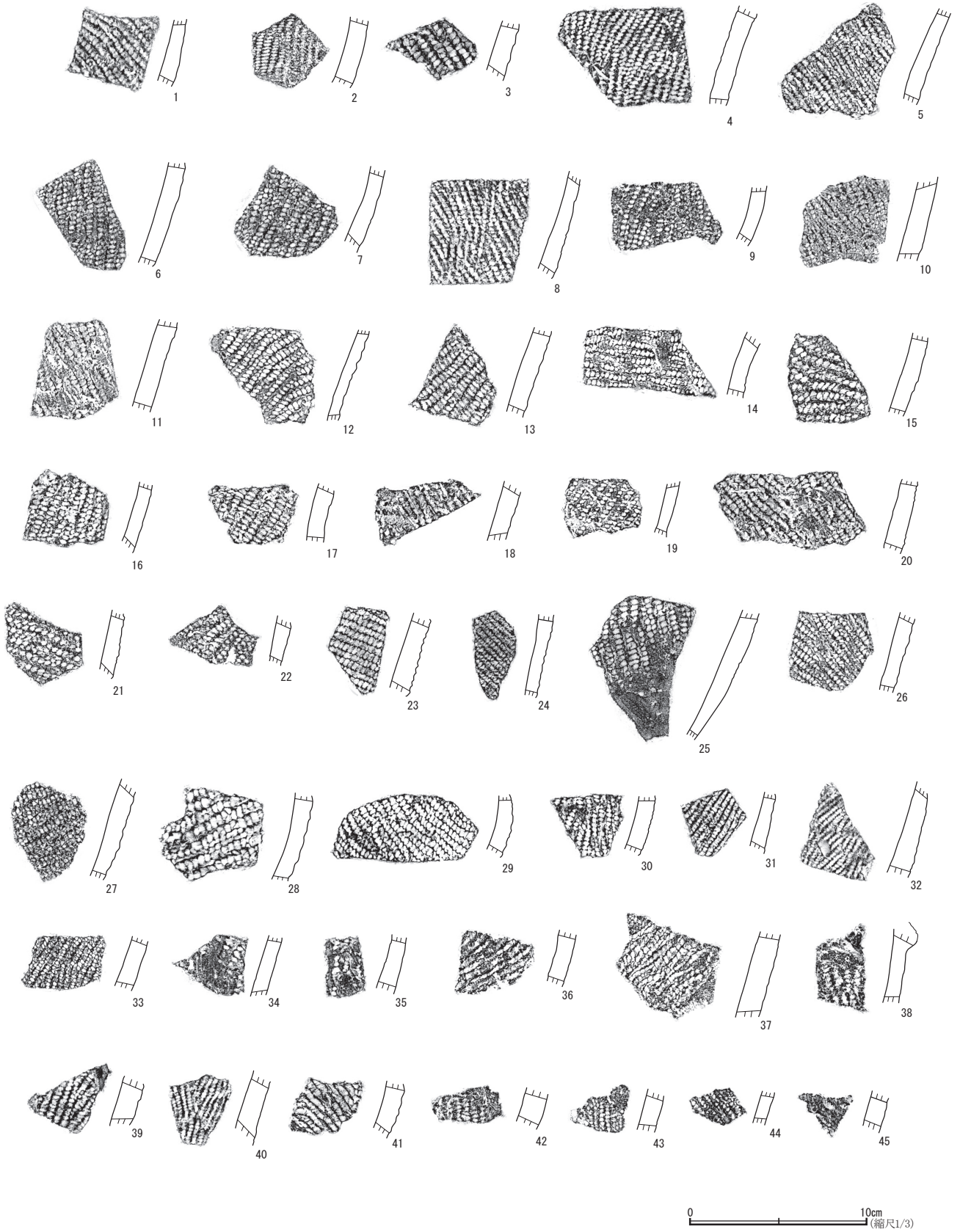
1 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式） 器種：深鉢形土器 文様：沈線文，単節斜縄文（RL） 備考：器内面磨き 2 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式） 器種：深鉢形土器 文様：沈線文，隆線文，単節斜縄文（RL） 備考：胎土に2～4mmの不透明粒と黒色細粒を含む 3 出土位置・注記：7次 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式） 器種：深鉢形土器 文様：沈線文，撚糸文（R） 4 出土位置・注記：7次 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式） 器種：深鉢形土器 文様：沈線文，撚糸文（R） 5 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式カ） 器種：深鉢形土器 文様：隆線文，単節斜縄文（RL）カ 備考：器内面磨き 6 出土位置・注記：9次SD2 時代時期：縄文時代中期カ 器種：深鉢形土器 文様：沈線文，櫛描文カ 備考：器内面磨き 7 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式） 器種：深鉢形土器カ 文様：微隆線文，単節斜縄文（RL）カ 備考：器内外面磨き 8 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式） 器種：深鉢形土器カ 文様：隆線文，沈線文，単節斜縄文（RL） 備考：器内面磨き 9 出土位置・注記：9次SD2 時代時期：縄文時代中期（加曾利E式） 器種：深鉢形土器

文様：隆線文，単節斜縄文（RL） 備考：器外面炭化物付着 10 出土位置・注記：9次SD4 時代時期：縄文時代中期カ 器種：深鉢形土器カ 文様：沈線文，単節斜縄文（RL） 11 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期カ 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（RL） 備考：器外面にネズミの齧り痕あり 12 出土位置・注記：10次SD3-3区 時代時期：縄文時代中期カ 文様：沈線文，単節斜縄文（RL）カ 13 出土位置・注記：10次SD2 時代時期：縄文時代中期 文様：沈線文，無節斜縄文（R）カ 備考：器内面磨き 14 出土位置・注記：10次表採 時代時期：縄文時代中期カ 文様：沈線文，単節斜縄文（LR）カ 備考：器内面磨き 15 出土位置・注記：9次SD2-4区 時代時期：縄文時代中期カ 文様：沈線文，単節斜縄文（LR）カ 備考：器内面磨き 16 出土位置・注記：9次SD1 時代時期：縄文時代中・後期カ 文様：貼瘤，磨消縄文カ，単節斜縄文（LR）カ 17 出土位置・注記：9次SX1 時代時期：縄文時代中期（加曾利E2式カ） 器種：深鉢形土器 文様：沈線文，単節斜縄文（RL）カ 備考：第22図1と同一個体カ 18 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（RL） 備考：器内面磨き，胎土に黄褐色粒を含む 19 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（RL） 20 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（RL） 備考：器内面磨き 21 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（RL） 備考：器内面磨き，ネズミの齧り痕あり 22 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（RL） 備考：器内面磨き 23 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（LR） 備考：破面にネズミの齧り痕あり，器内面変色 24 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（RL） 備考：器内面変色 25 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（RL） 26 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（RL） 備考：器内面磨き 27 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：無節斜縄文（R） 備考：器内面磨き，器外面炭化物付着，28と同一個体カ 28 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：無節斜縄文（R） 備考：27と同一個体カ 29 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（LRカ） 備考：器外面炭化物付着 30 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期 器種：深鉢形土器 文様：単節斜縄文（RL） 備考：胎土に黒色粒含む 31 出土位置・注記：

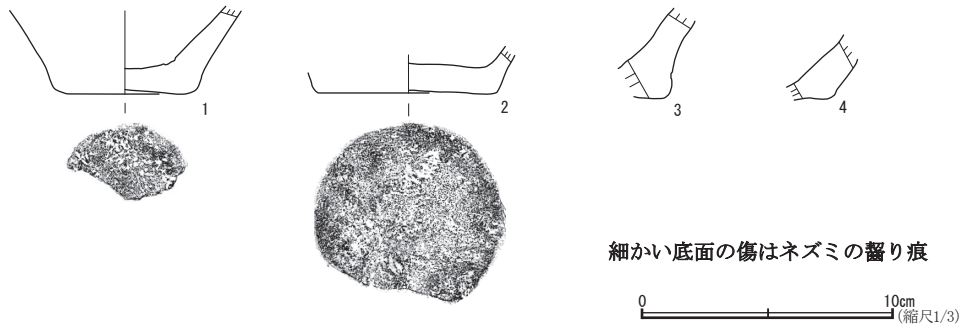


0 10cm (縮尺1/3)

第 23 図 調査区出土の縄文土器④



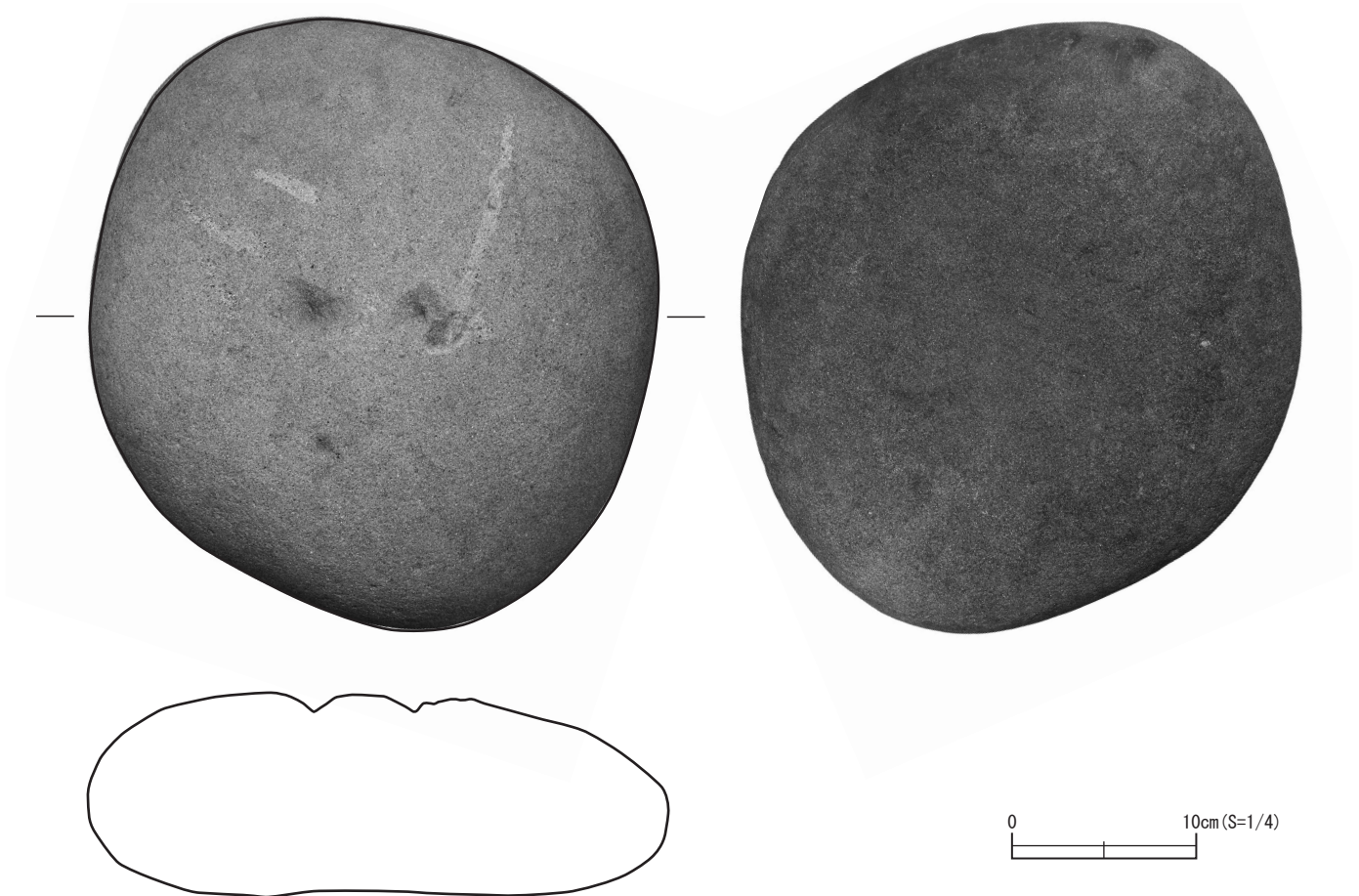
第24図 調査区出土の縄文土器⑤



第 25 図 調査区出土の縄文土器⑥

細かい底面の傷はネズミの齧り痕

0 10cm (縮尺1/3)



第 26 図 調査区出土の縄文時代石器

代中期カ 器種：深鉢形土器カ 文様：単節斜縄文 (RLカ) 44 出土位置・注記：10次表採 時代時期：縄文時代中期カ 文様：単節斜縄文 (RL) 備考：器内面磨き 45 出土位置・注記：10次SD2 時代時期：縄文時代中期カ 文様：無節斜縄文 (L)カ 備考：器内面磨き

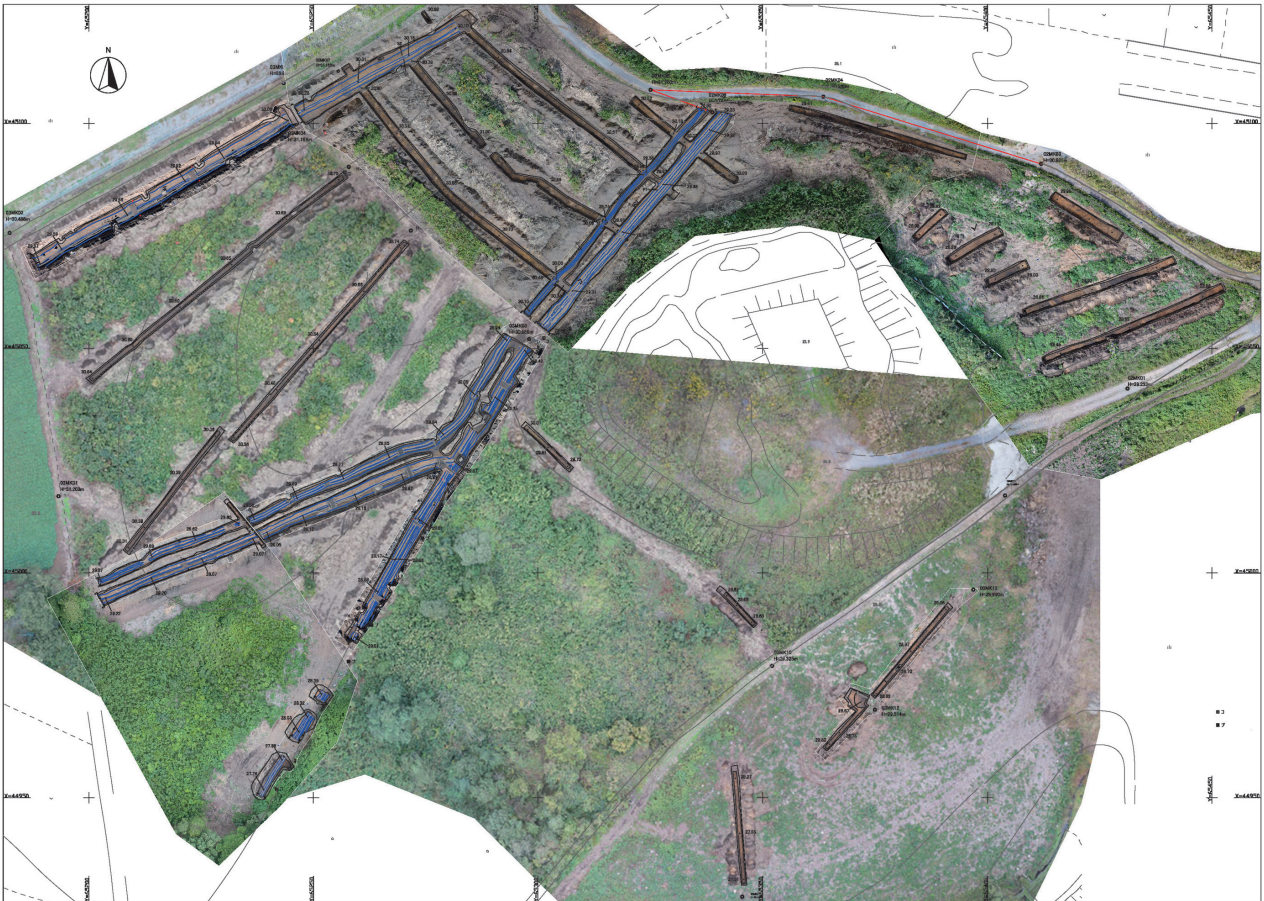
注記：10次表採 時代時期：縄文時代中期カ 器種：深鉢形土器カ

3 縄文時代の石器

縄文時代の石器は、第9次調査の性格不明遺構から石皿が1点出土している(第26図)。石材はアルコース質中粒砂岩で、長さ329mm、幅315mm、高さ111mmである。両面とも石皿として使用しており、片面に凹みが3箇所あり、緩やかな凸面になっている。一方の面には平滑面に研磨した痕跡があり、また僅かに黒く変色している。

第 25 図

1 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曾利E3式カ) 器種：深鉢形土器 法量：底径50mm(残存率38%) 備考：器外面磨き, 底面にネズミの齧り痕あり 2 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期カ 法量：底径70mm(残存率79%) 備考：底面にネズミの齧り痕あり 3 出土位置・注記：9次16トレ 時代時期：縄文時代中期(加曾利E3式カ) 器種：深鉢形土器カ 法量：底径62mm(残存率26%) 備考：器外面削り, 底面磨き 4 出土位置・



向野A遺跡第8・9・10次調査区全景（合成画像）



第7次調査区第1号溝跡（東から）



第8次調査区第1号溝跡（東から）



第9次調査区第1号溝跡（東から）



第9次調査区第1号溝跡（西から）

図版2 第2号溝状跡



第8次調査区第2号溝跡（西から）



第9次調査区第2号溝跡（東から）



第9次調査区第2号溝跡（東から）



第9次調査区第2号溝跡（西から・屈曲部分）



第9次調査区第2号溝跡（東から）



第10次調査区第2・4号溝跡(東から)



第10次調査区第2号溝跡(西から)



第10次調査区第2号溝跡(東から)



第8次調査区第3・4号溝跡(東から)



第8次調査区第3・4号溝跡(西から)

図版4 第3・4号溝跡(1)



第8次調査区第3・4号溝跡(東から・底面の掘削痕跡)



第8次調査区第3・4号溝跡内ピット(西から)



第9次調査区第3号溝跡(東から)



第9次調査区第3号溝跡(東から)



第9次調査区第3号溝跡(西から)



第9次調査区第3号溝跡(東から)



第10次調査区第3号溝跡(東から)



第8次調査区第4号溝跡(東から)



第9次調査区第4号溝跡(東から)



第9次調査区第4号溝跡(西から)

図版6 第2・3・4号溝跡 (2)



第9次調査区第2・3・4号溝跡 (東から)



第9次調査区第2・4号溝跡 (西から)



第10次調査区第4号溝跡(東から)



第10次調査区第4号溝跡(東から)



第9次調査区第1号性格不明遺構(北から)



第9次調査区第2号性格不明遺構(西から)



第19図1



第19図2



第19図5

石器2 (S = 1/1)



第26図

石器3 (大きさ任意)



第25図2

縄文土器1 (鼠の齧り痕)

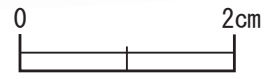


第20図2

縄文土器2



第2号溝跡・調査区出土須恵器 (S=1/4)



第1号溝跡出土銅銭

第5図

報告書抄録

フリガナ	ムカイノエーイセキダイ7～10ジハックツチョウサホウコクシヨ
書名	向野 A 遺跡第7～10次発掘調査報告書
編集者名	稲田健一
著者名	橋本勝雄, 田中美零, 稲田健一
編集機関	公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社
編集機関所在地	茨城県ひたちなか市大字中根 3499 ひたちなか市埋蔵文化財調査センター内
発行機関	公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社
発行機関所在地	茨城県ひたちなか市大字中根 3499 ひたちなか市埋蔵文化財調査センター内
発行年	2023年3月15日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	標高	調査期間	面積	備考
		市町村	遺跡番号						
ムカイノエー 向野 A	ひたちなか市 馬渡字向野	08221	148	36° 24' 04"	140° 33' 57"	30.5 ~ 31.0 m	20191009 ~ 1031	50 m ²	7次
							20201001 ~ 1204	1,100 m ²	8次
							20211001 ~ 1210	1,450 m ²	9次
							20220520 ~ 0614	275 m ²	10次

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
向野 A	包蔵地	旧石器 縄文 中世 時期不明	遺構なし 遺構なし 道跡1条 溝跡3条	石器 土器・石器 銅銭（元祐通宝） なし	第1号溝跡は、中世の「鎌倉街道」推定路線上にあり、出土した銅銭からも、道跡に伴う溝跡の可能性が高い。



第10次調査員一同

向野 A 遺跡第7～10次発掘調査報告書

令和5（2023）年3月15日発行

編集 公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

発行 公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

〒312-0011 茨城県ひたちなか市中根 3499

TEL029-276-8311

印刷 株式会社 高野高速印刷

